



サウンドバー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故
になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを
示しています。この取扱説明書と別冊のスタートガイドをよくお読みのうえ、製品
を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

HT-ST9

聞く／見る

音声を調節する

BLUETOOTH機能を使う

ネットワーク機能を使う

著作権保護された4Kコンテンツを見る

詳細な設定と調整

その他の機能

その他

⚠ 警告 安全のために

(→ 48ページ～51ページもあわせてお読みください。)

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

48～51ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

44～47ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかりと差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



- ① 電源を切る
- ② 電源プラグをコンセントから抜く
- ③ オンラインストアまたはソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

本取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠ 警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故の原因となります。

⚠ 注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



プラグをコンセントから抜く

この取扱説明書の見かた

- ・本書では操作の説明はリモコンを使ってています。バースピーカーにも同じ名称や類似の名称のボタンがある場合は、バースピーカーでも操作できます。
- ・イラストは細かい部分をはぶいて描いていることがあります。そのため実際の製品とは多少異なることがあります。
- ・設定メニューの説明では、お買い上げ時の設定に下線がつけてあります。
- ・[--] カッコの中に書かれている文字はテレビ画面に、「--」カッコの中に書かれている文字は表示窓に表示されます。

目次

接続と準備 → スタートガイド(別冊)をご覧ください。

安全のために	2
この取扱説明書の見かた	3

聞く／見る

テレビやブルーレイディスク™レコーダーなどの音声を聞く	6
USB機器の音楽／写真を再生する	7
BLUETOOTH機器の音楽を聞く	8
ネットワーク経由で他機器の音楽／写真を再生する	8

音声を調節する

サウンド効果を楽しむ（サッカーモードなど）	9
DSEE HX機能を使う（圧縮音源を自然な音質で再生する）	11

BLUETOOTH機能を使う

BLUETOOTH機器の音楽を聞く	12
BLUETOOTH対応レシーバー（ヘッドホンなど）に送信して音声を聞く	14

ネットワーク機能を使う

有線でネットワークに接続する	16
無線でネットワークに接続する	17
パソコンなどにある音楽／写真ファイルを本機で再生する （ホームネットワーク機能）	18
モバイル機器の画面をテレビに映す（スクリーンミラーリング）	19
音楽サービスを楽しむ（ミュージックサービス）	20

著作権保護された4Kコンテンツを見る

4Kテレビとつなぐ	22
4K機器とつなぐ	23

詳細な設定と調整

設定メニューを使う	24
オプションメニューを使う	32

その他の機能

スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器から本機を操作する（SongPal）	34
“プラビアリンク”を使う	36
デジタル放送用の音声（AAC）を楽しむ	38
バースピーカーのボタンを動作しないようにする（チャイルドロック）	39

明るさを調整する	39
スタンバイ状態時の消費電力をおさえる	39
IRリピーター機能を有効にする（テレビのリモコンでテレビの 操作ができない場合）	40
ワイヤレスの設定をする（サブウーファー）	41
バースピーカーの角度を変える	42
バースピーカーを壁に取り付ける	42
グリルを取り付ける	43

その他

使用上のご注意	44
安全のために	48
故障かな？と思ったら	52
各部の名前と働き	58
再生できるファイルの種類	62
再生対応フォーマット	63
保証書とアフターサービス	64
主な仕様	65
BLUETOOTH無線技術について	68
索引	70
ソフトウェア使用許諾契約書	72

テレビやブルーレイディスク™ レコーダーなどの音声を聞く

1 ホームボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

2 ↑/↓/↔/→ボタンを押して、お好みの入力を選び、決定ボタンを押す。

リモコンの入力切換ボタンで選ぶこともできます。

[TV]

「TV」

TV（デジタル入力（TV））端子につないだテレビなどの機器、またはHDMI出力（ARC）端子につないだオーディオリターンチャンネル機能対応のテレビ

[HDMI1]／[HDMI2]／[HDMI3]

「HDMI 1」／「HDMI 2」／「HDMI 3」

HDMI入力1、HDMI入力2、またはHDMI入力3端子につないだ機器

[Bluetooth Audio]

「BT」

BLUETOOTH機器の音楽コンテンツ（12ページ）

[Analog]

「Analog」

アナログ入力端子につないだ機器

[USB]

「USB」

↓(USB) 端子につないだUSB機器（7ページ）

[スクリーンミラーリング]

「SCR M」

スクリーンミラーリング対応機器（19ページ）

[Home Network]

「H.Net」

サーバーに保存されたコンテンツ（18ページ）

[Music Services]

「M.Serv」

インターネットのミュージックサービスでご利用できるコンテンツ（20ページ）

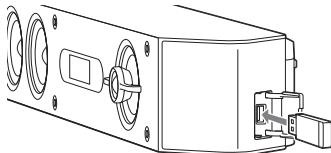
✿ちょっと一言

リモコンのペアリングボタン、ミラーリングボタンを押して〔Bluetooth Audio〕や〔スクリーンミラーリング〕を選ぶこともできます。

USB機器の音楽／写真を再生する

USB機器の音楽、写真ファイルを再生することができます。
再生可能なファイルについては「再生できるファイルの種類」(62ページ)をご覧ください。

- 1 φ (USB) 端子にUSB機器を差し込む。
差し込む前にUSB機器の取扱説明書をご覧ください。



- 2 ホームボタンを押す。
ホームメニューがテレビ画面に表示されます。
- 3 $\uparrow/\downarrow/\leftarrow/\rightarrow$ ボタンを押して [USB] を選び、決定ボタンを押す。
- 4 \uparrow/\downarrow ボタンを押して、 ♪ [ミュージック] または 📷 [フォト] を選ぶ。
- 5 $\uparrow/\downarrow/\leftarrow/\rightarrow$ と決定ボタンを押して、お好みのコンテンツを選ぶ。

ご注意

操作中はUSB機器を取りはずさないでください。USB機器を本機につないだり取りはずしたりするときは、データの損失やUSB機器の故障を避けるため、必ず本機の電源を切ってください。

BLUETOOTH機器の音楽を 聞く

詳しくは、「BLUETOOTH機能を使う」(12ページ) をご覧ください。

ネットワーク経由で他機器の 音楽／写真を再生する

詳しくは、「ネットワーク機能を使う」(16ページ) をご覧ください。

サウンド効果を楽しむ (サッカーモードなど)

さまざまな種類の音源に合わせて調整されたサウンド効果を選ぶことができます。

サウンドフィールドを選ぶ

サウンドフィールドボタンを繰り返し押して、テレビ画面にお好みのサウンドフィールドを表示させる。

[ClearAudio+]

再生するコンテンツに合ったおすすめの音設定に自動的に切り換わります。

【映画】

映画に適したサウンド効果。音の密度、豊かな広がりを再現するモードです。

【映画2】

映画に適したサウンド効果。後方へ回り込む音を豊かに再現するモードです。

【ミュージック】

音楽を聞くときに最適です。

【ゲームスタジオ】

ビデオゲームを楽しむときに最適です。

【ミュージックアリーナ】

ソニー独自のオーディオDSP技術によりライブコンサートの臨場感を再現します。

【スタンダード】

さまざまな音源に対応します。

ちょっと一言

CLEARAUDIO+ボタンを押して [ClearAudio+] を選ぶこともできます。

オプションメニューからサウンドフィールドを選ぶには

- 1 オプションボタンを押し、 \uparrow/\downarrow ボタンを押して [サウンドフィールド] を選び、決定ボタンを押す。
- 2 \uparrow/\downarrow ボタンを押してお好みのサウンドフィールドを選び、決定ボタンを押す。

サッカーモードを使う

サッカースタジアムの観客席で観戦しているかのような臨場感を再現します。

サッカー放送中にサッカーボタンを押す。

[ナレーション 入]：歓声を強調するとともに、スタジアムの雰囲気を再現することで、サッカー観戦の臨場感を楽しめます。

[ナレーション 切]：ナレーションの音量を小さくすることで、よりサッカー観戦への没入感を高めます。このモードに設定すると、ナレーションなどの人の声や緊急放送のアラームなどがほとんど聞こえなくなります。

[切]：サッカーモードが解除されます。

ご注意

- ・サッカーモードは、サッカー試合中にご使用いただくことをおすすめします。
- ・[ナレーション 切] を選んでいて音声に違和感を感じるときは、[ナレーション 入] をおすすめします。
- ・本機の電源を切ったときや他のサウンドフィールドボタン（61ページ）が押されたときは、サッカーモードも解除されます。
- ・モノラル音声には対応していません。
- ・ステレオの音声が入力された場合、サウンドフィールドに応じてソニー独自のマルチチャンネル化処理が動作します。

△ちょっと一言

- ・オプションメニューから [サッカーモード] を選ぶこともできます（32ページ）。
- ・5.1チャンネル音声が選べる場合は、テレビやケーブルテレビ（CATV）ボックスまたは衛星放送チューナー側で5.1チャンネル音声を選ぶことをおすすめします。

ナイトモードを使う

小さい音量でも音響効果やセリフの明瞭さを失わずに音声を楽しめます。

ナイトモードボタンを繰り返し押す。

- ・[入]：ナイトモード機能を有効にします。
- ・[切]：ナイトモード機能を無効にします。

△ちょっと一言

オプションメニューから [ナイトモード] を選ぶこともできます（32ページ）。

ボイスを使う

セリフをより聞き取りやすくします。

ボイスボタンを繰り返し押す。

- ・[TYPE1]：標準
- ・[TYPE2]：セリフ音域を強調します。
- ・[TYPE3]：セリフ音域の強調に加え、年齢とともに聞こえにくくなる帯域を補強します。

△ちょっと一言

オプションメニューから [ボイス] を選ぶこともできます（32ページ）。

DSEE HX機能を使う（圧縮音源を自然な音質で再生する）

圧縮音源をハイレゾ相当の高解像度音源にアップスケーリングし、録音スタジオやコンサート会場にいるような臨場感を再現します。

この機能はサウンドフィールドで【ミュージック】が選ばれているときのみご使用になります。

ご注意

- 可逆圧縮を含むPCM音源に対しては、DSEE HXの微小な音を再現する機能のみが有効になります。DSD (DSDIFF, DSF) 形式のファイルには、DSEE HX の設定は反映されません。ファイルが最大96 kHz/24ビットまで拡張されます。
- 44.1 kHz または 48 kHz の2チャンネルデジタル入力信号入力時に働きます。
- 【Analog】が選ばれている場合、この機能は働きません。
- 【Bluetoothモード】で【送信】が選ばれている場合、この機能は働きません（28ページ）。

1 ホームボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

2 [設定] - [音声設定] を選ぶ。

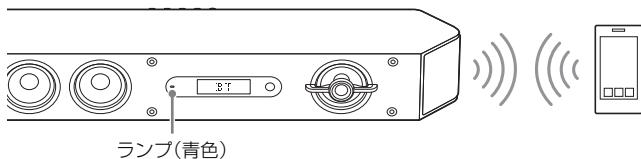
3 [DSEE HX] を選ぶ。

4 [入] を選ぶ。

BLUETOOTH機能を使う

BLUETOOTH機器の音楽を聞く

BLUETOOTH機器を登録（ペアリング）して接続する



機器を登録するには（ペアリング）

- 1 ペアリングボタンを押す。
バースピーカーのランプ（青色）が速く点滅（ペアリング中）します。
- 2 BLUETOOTH機器側のBLUETOOTH機能をオンにし、機種検索をして、「HT-ST9」を選ぶ。
パスコードを要求された場合は、「0000」を入力します。
- 3 バースピーカーのランプ（青色）が点灯（接続完了）していることを確認する。

ペアリング操作をやめるには

ホームボタンまたは入力切換ボタンを押します。

△ちょっとひとと

BLUETOOTH接続完了後、お使いの接続機器によってアプリケーションのダウンロードを促す表示がされることがあります。表示に従うと、本機を操作できるアプリケーションSongPalをダウンロードしていただけます。

SongPalについては、「スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器から本機を操作する（SongPal）」（34ページ）をご覧ください。

登録済みの機器の音声を聞くには

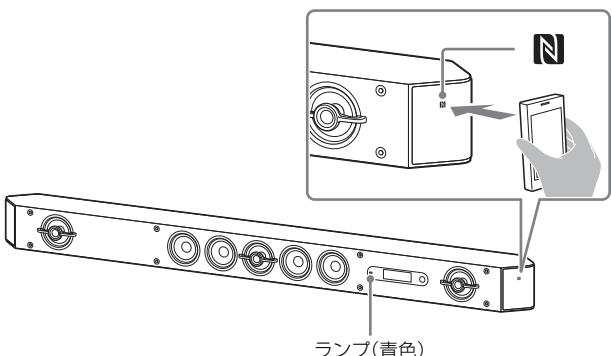
- 1 ホームボタンを押す。
ホームメニューがテレビ画面に表示されます。
- 2 [Bluetooth Audio] を選ぶ。
最後に接続したBLUETOOTH機器と自動的に接続します。
- 3 バースピーカーのランプ（青色）が点灯（接続完了）していることを確認する。
接続が完了しなかった場合、BLUETOOTH機器側で、「HT-ST9」を選んでください。
- 4 接続したBLUETOOTH機器側の音楽再生アプリで音声を再生する。

ご注意

お使いのBLUETOOTH機器がAVRCPに対応している場合、本機と接続すると、本機のリモコン（▶ボタン、■ボタン、◀◀/▶▶ボタン、◀◀/▶▶ボタン）を使って操作することができます。

ワンタッチ (NFC) で接続する

BLUETOOTH機器をバースピーカーのNマークにタッチするだけで、BLUETOOTH機器の登録（ペアリング）や接続が行われます。



対応する機器

NFC機能またはおサイフケータイ機能を搭載したスマートフォン、タブレットやミュージックプレーヤー
(対応OS : Android™ 2.3.3以降、Android 3.xを除く)

ご注意

- BLUETOOTH機器によっては、あらかじめ以下のことを行う必要があります。
 - NFC機能をオンにする。
 - Google Play™から【NFC簡単接続】アプリをダウンロードし、アプリを起動する。詳しくはお使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- この機能はBLUETOOTH対応レシーバー（ヘッドホンなど）では働きません。BLUETOOTH対応レシーバーで音楽を聞く場合は、「BLUETOOTH対応レシーバー（ヘッドホンなど）に送信して音声を聞く」（14ページ）をご覧ください。

- 1 BLUETOOTH機器でバースピーカーのNマークにタッチする。
- 2 バースピーカーのランプ（青色）が点灯（接続完了）していることを確認する。
- 3 BLUETOOTH機器で再生を開始する。

BLUETOOTH対応レシーバー（ヘッドホンなど）に送信して音声を聞く

本機から出力される音声をBLUETOOTH対応レシーバー（ヘッドホンなど）で聞くことができます。

1 ホームボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます

2 ホームメニューから [設定] - [Bluetooth設定] を選ぶ。

3 [Bluetoothモード] を選ぶ。

4 [送信] を選ぶ。

5 BLUETOOTH対応レシーバーのBLUETOOTH機能をオンにする。

機器登録（ペアリング）については、BLUETOOTH対応レシーバーに付属の取扱説明書をご覧ください。

6 本機の [Bluetooth設定] の [機器リスト] からBLUETOOTH対応レシーバーの機器名を選ぶ（28ページ）。

BLUETOOTH接続が完了すると、バースピーカーのランプ（青色）が点灯します。

[機器リスト] にBLUETOOTH対応レシーバーの機器名が見つからない場合は、[検索] を選んでください。

ちょっと一言

他のモードから [Bluetoothモード] を [送信] に変更した場合、確認ダイアログ表示後に [機器リスト] が表示されます。

7 ホームメニューに戻り、お好みの入力を選ぶ。

本機の表示窓に「BT TX」と表示され、BLUETOOTH対応レシーバーから音声が送出されます。

本機のスピーカーから音声は出力されません。

8 音量を調節する。

最初にBLUETOOTH対応レシーバーを適度な音量にします。BLUETOOTH対応レシーバーに接続した状態では、バースピーカーのVOLUME +／-ボタンやリモコンの音量ボタンで、BLUETOOTH対応レシーバーの音量を調節できます。

ご注意

- BLUETOOTH対応レシーバーによっては音量を調節できない場合があります。
- [Bluetoothモード] が [送信] になっているときは [スクリーンミラーリング] または [Bluetooth Audio]、オーディオ機器コントロール機能が無効になります。
- [Bluetooth Audio] か [スクリーンミラーリング] の入力を選んでいるときは [Bluetoothモード] を [送信] にすることはできません。また、リモコンの受信/送信ボタンでの切り替えはできません。

- BLUETOOTH機器は9台まで登録することができます。9台分を登録したあと新たな機器をペアリングすると、9台の中で接続履歴の最も古い機器の登録情報が、新たな機器の情報で上書きされます。
- BLUETOOTH機器は「[機器リスト]」に15台まで表示することができます。
- BLUETOOTH対応レシーバーに音声を送信している場合は、オプションメニューのサウンド効果の設定の変更はできません。
- 著作権保護コンテンツとして保護されているコンテンツは出力できません。
- BLUETOOTH対応レシーバーがSCMS-T非対応の場合は、音声を出力できません。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、本機側の再生に比べて受信側での音声・音楽再生が遅れます。
- BLUETOOTH対応レシーバーが正しく接続されているときは、スピーカーやHDMI出力（ARC）端子からは音声が出力されません。

ちょっと一言

- 送信される音声が、AACコーデック、LDACコーデックを使用するか変更することができます（28ページ）。
- リモコンの受信/送信ボタンでも「Bluetoothモード」の切り換えができます。手順5の機器がペアリング済みで、最後に接続していた機器の場合、受信/送信ボタンを押すだけで自動的に本機と接続できます。この場合、手順6の操作をおこなう必要はありません。

BLUETOOTH対応レシーバーの接続を解除するには

次のいずれかを行ってください。

- BLUETOOTH対応レシーバーのBLUETOOTH機能を無効にする。
- 「Bluetoothモード」を「[受信]」または「[切]」にする（28ページ）。
- 本機またはBLUETOOTH対応レシーバーの電源を切る。
- 「Bluetooth設定」の「[機器リスト]」で接続中のBLUETOOTH対応レシーバーの機器名を選ぶ。

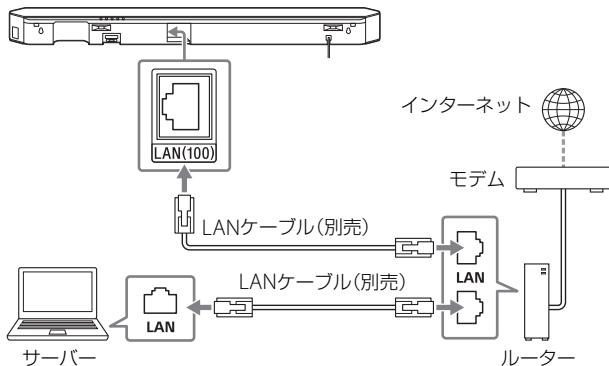
BLUETOOTH対応レシーバーを機器リストから削除するには

- 1 「BLUETOOTH対応レシーバー（ヘッドホンなど）に送信して音声を聞く」の手順1から6を行う。
- 2 BLUETOOTH対応レシーバーの機器名を選び、オプションボタンを押す。
- 3 「[削除]」を選ぶ。
- 4 テレビ画面の指示にしたがってBLUETOOTH対応レシーバーを機器リストから削除する。

有線でネットワークに接続する

LANケーブルを使ってネットワークに接続する

下図はサーバーを使ったネットワークの構成例です。
サーバーをルーターにつなぐときは、有線接続をおすすめします。



ちょっと一言

シールドタイプのLANケーブル（ストレートケーブル）をお使いください。

有線LAN接続の設定をする

以下の手順で有線LAN接続を設定できます。

1 ホームボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

2 [設定] - [通信設定] を選ぶ。

3 [ネットワーク設定] を選ぶ。

4 [有線LAN設定] を選ぶ。

5 [自動取得] を選ぶ。

ネットワーク接続が開始され、確認画面が表示されます。

6 ↑/↓ボタンを押して情報を閲覧し、→ボタンを押す。

7 [接続診断] を選ぶ。

ネットワーク接続が開始されます。詳しくは画面に表示されるメッセージをご覧ください。

固定IPアドレスを使用するときは

手順5で [手動] を選び、画面の指示にしたがって、操作してください。

ちょっとひとと

ネットワークの接続状況を確認するときは、[ネットワークの設定確認] をご覧ください。

無線でネットワークに接続する

無線LAN接続の設定をする

ネットワーク設定をする前に

無線LANルーター（アクセスポイント）がWi-Fi Protected Setup (WPS)に対応しているときは、WPSボタンで簡単にネットワーク設定ができます。

対応していない場合は、次の情報を選ぶか入力する必要があります。次の情報をあらかじめご確認ください。

- LANルーター／アクセスポイントのネットワーク名 (SSID) *
- ネットワークのセキュリティキー（パスワード）**

* SSID (Service Set Identifier) は具体的なアクセスポイントを確認する名前です。

** この情報は、無線LANルーター／アクセスポイントのラベル、取扱説明書、ワイヤレスネットワークを設定した人、またはインターネットサービスプロバイダーから得ることができます。

1 ホームボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます

2 ホームメニューから [設定] - [通信設定] を選ぶ。

3 [ネットワーク設定] を選ぶ。

4 [無線LAN設定（内蔵）]を選ぶ。

5 [WPS（プッシュボタン方式）] を選ぶ。

6 [開始] を選ぶ。

7 アクセスポイントのWPSボタンを押す。

ネットワーク接続を開始します。

ネットワーク名 (SSID) を選ぶときは

手順5でお好みのネットワーク名 (SSID) を選んでから、ソフトウェアキーボードでセキュリティキー（またはパスフレーズ）を入力し、[Enter] を選びます。ネットワーク接続が開始されます。詳しくはテレビ画面に表示されるメッセージをご覧ください。

固定IPアドレスを使用するときは

手順5で [新しい接続先の登録] を選んでから、画面の指示にしたがって、操作してください。

(WPS) PIN方式を選ぶときは

手順5で [新しい接続先の登録] を選んでから、[(WPS) PIN方式] を選びます。

ちょっとひと言

ネットワークの接続状況を確認するときは、[ネットワークの設定確認] をご覧ください。

パソコンなどにある音楽／写真 ファイルを本機で再生する (ホームネットワーク機能)

他のホームネットワーク対応機器をホームネットワークにつなぐと、音楽／写真ファイルを再生することができます。

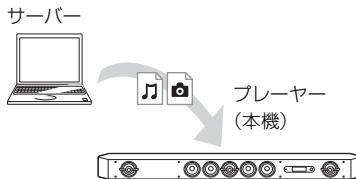
本機はプレーヤーまたはレンダラーとして使用できます。

- ・サーバー：デジタルメディアコンテンツを保管、共有します。
- ・プレーヤー：サーバーのデジタルメディアコンテンツを検索し、再生します。
- ・レンダラー：サーバーのデジタルメディアコンテンツを受信し、再生します。コントローラーで操作できます。
- ・コントローラー：サーバーからデジタルメディアコンテンツを検索し、レンダラー機器に再生させます。

ホームネットワーク機能の準備をする

- ・本機をネットワークにつなぎます。
- ・他のホームネットワーク対応機器を準備してください。詳しくは機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

本機（プレーヤー）を使ってサーバーに保管された
ファイルを再生する



1 ホームボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

2 [Home Network] を選ぶ。

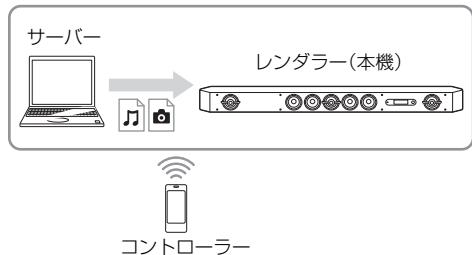
3 使用したい機器を選ぶ。

4 ←/→ボタンを押して、♫[ミュージック] または 📷[フォト] を選ぶ。

5 ↑/↓/←/→と決定ボタンを押して、お好みのコンテン ツを選ぶ。

ホームネットワークのコントローラーで本機（レンダラー）を操作し、リモートファイルを再生する

サーバーに保管されたファイル再生中に、ホームネットワークコントローラー対応機器（スマートフォンやタブレットのアプリなど）を使って本機を操作できます。



操作についてはコントローラー対応機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

本機のリモコンとコントローラーを同時に使用しないでください。

ちょっと一言

本機はWindows 7標準のWindows Media® Player 12のリモート再生機能に対応しています。

モバイル機器の画面をテレビに映す（スクリーンミラーリング）

スクリーンミラーリングとはモバイル機器の画面をMiracastテクノロジーによってテレビに表示する機能です。

スクリーンミラーリング対応機器（スマートフォン、タブレットなど）と本機を直接接続できます。これにより、モバイル機器の表示をテレビの大画面に映すことができます。

この機能を使うのにワイヤレスルーター（またはアクセスポイント）は必要ありません。

1 ミラーリングボタンを押す。

2 テレビ画面の指示にしたがって操作する。

モバイル機器の【スクリーンミラーリング】機能を起動させてください。操作については、モバイル機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

ワンタッチミラーリング機能（NFC）を使ってXperiaスマートフォンに接続するには

ミラーリングボタンを押してから、Xperiaスマートフォンと本機をワンタッチ（NFC）で接続します（13ページ）。

ミラーリングを解除するには

ホームボタンまたは入力切換ボタンを押します。

ご注意

- ・他のネットワークからの電波干渉により、スクリーンミラーリングの音質や画質が悪くなる場合があります。
- ・使用環境によっては、画質や音質が悪くなる場合があります。
- ・スクリーンミラーリング中は、ネットワーク機能が使えない場合があります。
- ・機器がMiracast対応であることを確認してください。すべてのMiracast対応機器の接続性が保証されているわけではありません。

ちょっと一言

- ・[スクリーンミラーリング周波数設定] を設定して、再生の安定性を改善できます（31ページ）。

音楽サービスを楽しむ（ミュージックサービス）

本機を使ってインターネットのミュージックサービスを聞くことができます。この機能を使うには、本機がインターネットに接続されている必要があります。

以下の操作をすると、各ミュージックサービスを楽しむためのガイドが表示されます。ガイドに従ってミュージックサービスをお楽しみください。

1 ホームボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

2 [Music Services] を選ぶ。

サービスプロバイダーのリストがテレビ画面に表示されます。

ちょっと一言

サービスプロバイダーをアップデートするにはオプションボタンを押し、[サーバーリスト更新] を選びます。

3 ミュージックサービスを選ぶ。

Google Cast™を使う

Google Castを使うことで、Google Cast対応アプリから音楽コンテンツを選択し、本機で再生することができます。

Google Castを使うには、SongPalによる設定が必要です。

- 1** スマートフォンなどのモバイル機器に無料アプリ SongPalをダウンロードする。
- 2** 本機を接続している同一のネットワーク（16ページ）にモバイル機器をWi-Fiで接続する。
- 3** SongPalを起動して、[HT-ST9] を選び、[設定] - [Google Cast] - [キャスト方法] の順にタップする。
- 4** 使用方法とGoogle Cast対応アプリを確認し、アプリをダウンロードする。
- 5** Google Cast対応アプリを起動し、キャストアイコンをタップして、[HT-ST9] を選ぶ。



- 6** Google Cast対応アプリで音楽を選び、再生する。

本機で音楽が再生されます。

ご注意

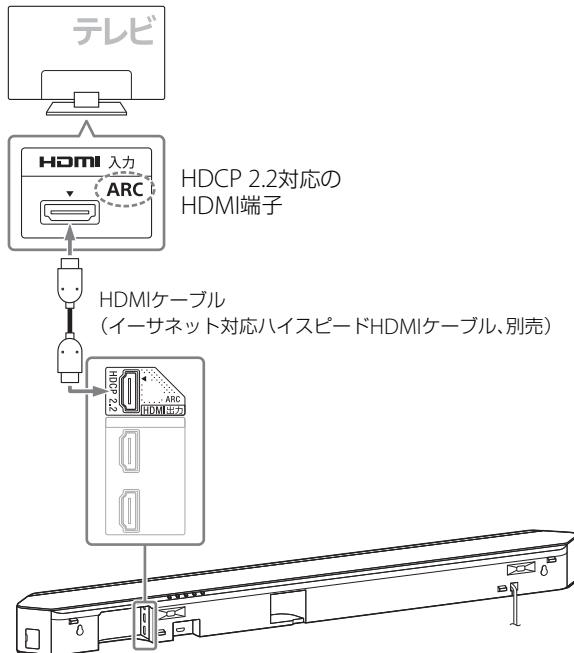
バースピーカーの表示窓に「Google Cast Updating」が表示されている間は Google Castを使用することができません。しばらく待ってから操作してください。

著作権保護された4Kコンテンツを見る

4Kテレビとつなぐ

著作権保護された4Kコンテンツを見る場合は、テレビとベースピーカーのHDCP 2.2対応HDMI端子同士をつなぎます。著作権保護された4KコンテンツはHDCP 2.2対応のHDMI端子につながないと視聴できません。お使いのテレビのどのHDMI端子がHDCP 2.2に対応しているかは、テレビに付属の取扱説明書をご覧ください。

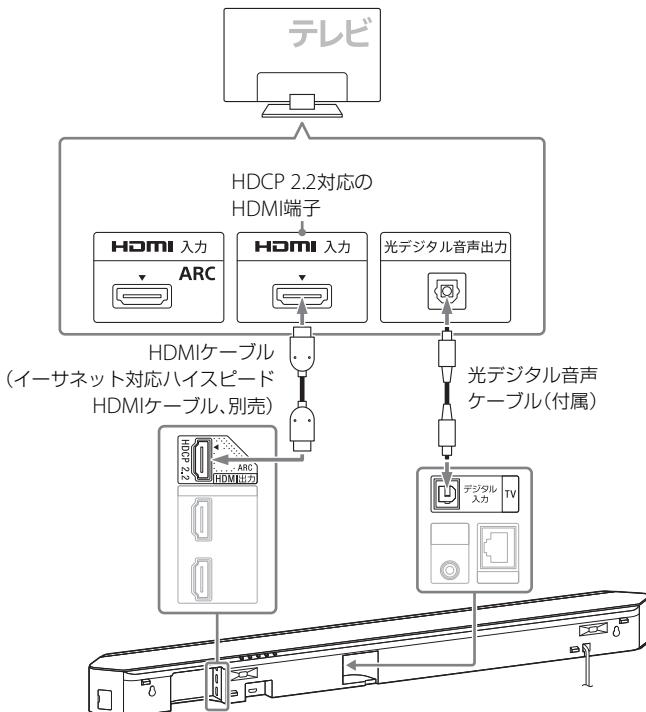
テレビのARC*表示があるHDMI端子がHDCP 2.2に対応している場合



* ARC（オーディオリターンチャンネル）機能はHDMIケーブルを使って、デジタル音声をテレビから本機に送信します。

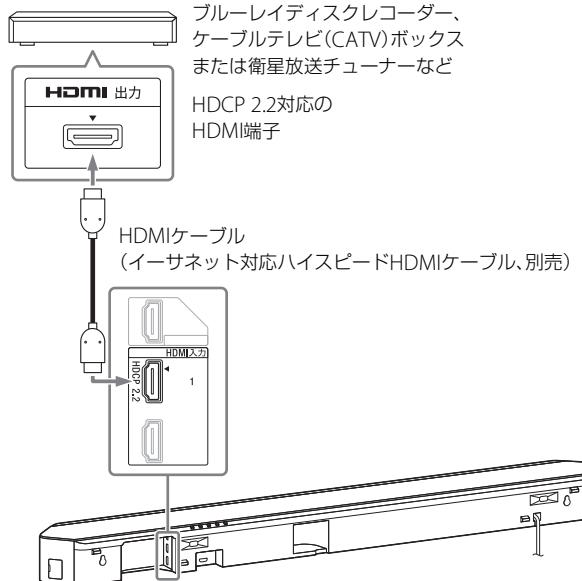
テレビのARC表示があるHDMI端子がHDCP 2.2に対応していない場合

テレビの光デジタル音声出力端子に光デジタル音声ケーブルをつないでください。HDCP 2.2対応HDMI入力端子にHDMIケーブルをつないでください。



4K機器とつなぐ

バースピーカーのHDMI入力1端子にHDMIケーブルをつなぎます。お使いの機器のどのHDMI端子がHDCP 2.2に対応しているかは、機器に付属の取扱説明書をご覧ください。



設定メニューを使う

画像や音声などのさまざまな設定をおこなうことができます。
お買い上げ時の設定は、下線がついている項目です。

1 ホームボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

2 ↑ボタンを押して、【設定】を選ぶ。

3 ↑/↓ボタンを押して、設定カテゴリーのアイコンを選び、決定ボタンを押す。

アイコン	説明
	【ソフトウェアアップデート】(25ページ) ネットワークに接続して、本機のソフトウェアを最新の状態にアップデートします。
	【映像設定】(25ページ) テレビの種類にあわせて映像の設定をします。
	【音声設定】(27ページ) 接続端子にあわせて音声の設定をします。
	【Bluetooth設定】(28ページ) BLUETOOTH機能の詳細設定をします。
	【本体設定】(29ページ) 本体に関する設定をします。
	【通信設定】(30ページ) インターネットとホームネットワークの詳細設定をします。
	【入力スキップ設定】(31ページ) 各外部入力に対してスキップ設定をします。
	【かんたん設定】(32ページ) 本機の基本的な設定をするために【かんたん設定】を再試行します。
	【かんたんネットワーク設定】(32ページ) 基本的なネットワーク設定をするために【かんたんネットワーク設定】を開始します。
	【設定初期化】(32ページ) 本体の設定を初期化します。

■ [ソフトウェアアップデート]

ネットワークに接続して、本機のソフトウェアを最新の状態にアップデートします。

ソフトウェアアップデート中は、バースピーカーの表示窓に[UPDT]と表示されます。アップデートが終了すると、本機は自動的に再起動します。アップデート中は、本機の電源を切ったり、本機やテレビの操作をしないでください。ソフトウェアアップデート終了までお待ちください。

ご注意

- ・アップデート情報については下記のホームページをご覧ください。
<http://www.sony.jp/support/home-theater/>
- ・自動的にソフトウェアアップデートを実行させたい場合は、[自動アップデート]を[入]に設定してください(30ページ)。ソフトウェアアップデートの内容によっては、[自動アップデート]が[切]に設定されてもアップデートが実行される場合があります。

■ [ネットワーク経由でアップデート]

ネットワークを使用してシステムのソフトウェアをアップデートします。ネットワークがインターネットに接続されていることを確認してください。

■ [USBメモリーからアップデート]

USBメモリを使用してソフトウェアをアップデートします。ソフトウェアのアップデートフォルダが「UPDATE」と名前が付けられていることを確認してください。

② ■ [映像設定]

■ [テレビタイプ]

- [16:9]：ワイド画面のテレビまたはワイドモード機能が搭載されているテレビとつなぐとき、この設定を選びます。
- [4:3]：画面サイズが4:3でワイドモード機能が搭載されていないテレビとつなぐとき、この設定を選びます。

■ [出力映像解像度設定]

- [自動]：接続されたテレビや他機器の解像度に合わせた解像度で出力します。
- [480i]、[480p]、[720p]、[1080i]、[1080p]：選んだ解像度で出力します。

■ [24p出力]

[ネットワークコンテンツ24p出力]

この機能はスクリーンミラーリングから再生中のコンテンツに使用できます。

[自動]：1080/24p映像に対応しているテレビとHDMI接続し、[出力映像解像度設定]を[自動]または[1080p]に設定しているとき、24p映像を出力します。

[切]：テレビが1080/24p映像に対応していないときに選びます。

■ [4K出力]

[自動1]：ソニー製4K映像対応機器と接続しているときは、ビデオ再生では2K映像(1920×1080)、写真再生では4K映像を出力します。

ソニー製以外の4K映像対応機器と接続しているときは、24pコンテンツ再生または写真再生で4K映像を出力します。

この機能は、3D映像のときは働きません。

[自動2]：4K/24p対応機器を接続し、[24p出力]の[ネットワークコンテンツ24p出力]を正しく設定しているときは、自動的に4K/24p映像を出力します。また、2Dフォトファイルを再生するときは4K/24pの写真イメージを出力します。

[切]：この機能を使いません。

ご注意

[自動1]が選ばれているときでもソニー製機器が検出されない場合は、

[自動2]設定と同じ効果になります。

■ [HDMI映像出力フォーマット]

[自動]：他機器の種類を自動的に検出し、それに適合するカラー設定をします。

[YCbCr (4:2:2)]：YCbCrを4:2:2の比率で色変換を行います。

[YCbCr (4:4:4)]：YCbCrを4:4:4の比率で色変換を行います。

[RGB]：HDCP対応のDVI端子のある機器と接続するときに選びます。

■ [HDMI Deep Color出力]

[自動]：通常はこの設定にします。

[12bit]、[10bit]：テレビがDeep Color機能に対応しているときは、12bit／10bit映像を出力します。

[切]：映像が安定しないときや色が不自然なときに選びます。

■ [Video Direct]

[HDMI1]または[HDMI2]、[HDMI3]入力が選ばれているときは、本機のオンスクリーンディスプレイ(OSD)を無効にできます。

ゲームをしているときに、ゲーム画面だけを楽しめます。

[入]：OSDを無効にします。情報は画面に表示されません。また、オプションボタンとディスプレイボタンは使えなくなります。

[切]：サウンドフィールドの設定を変えたときなどにのみ、情報を画面に表示します。

■ [SBM]

[入]：HDMI出力(ARC)端子から出力される映像信号の階調をなめらかに表現できます。

[切]：映像が乱れたときや色が不自然なときに選びます。

[音声設定]

■ [DSEE HX]

この機能はサウンドフィールドで【ミュージック】が選ばれているときのみ使用することができます。

[入]：圧縮音源をハイレゾ相当の高解像度音源にアップスケーリングし、圧縮により失われがちな高音域をクリアに再現します（11ページ）。

[切]：この機能を使いません。

■ [オーディオDRC]

音声のダイナミックレンジを圧縮することができます。

[自動]：ドルビーTrueHDでエンコードされた音声を自動的に圧縮します。

[入]：レコーディングエンジニアが意図したダイナミックレンジで再生します。

[切]：この機能を使いません。

■ [入力レベル抑制設定 -Analog]

アナログ入力端子につないでいる機器の音声が歪むことがあります。

その場合、音声入力レベルを小さくして歪みを防ぐことができます。

[入]：入力レベルを小さくします。本機からの出力は小さくなります。

[切]：この機能を使いません。

■ [音声出力]

本機の音声出力方法を選ぶことができます。

[スピーカー]：マルチチャンネル音声を本機のスピーカーからのみ出力します。

[スピーカー+HDMI]：マルチチャンネル音声を本機のスピーカーから、2チャンネルリニアPCM音声をHDMI出力（ARC）端子から出力します。

[HDMI]：HDMI出力（ARC）端子からのみ出力します。音声フォーマットはつないだ機器によって異なります。

ご注意

[HDMI機器制御] を【入】に設定しているときは（29ページ）、この設定は自動的に【スピーカー+HDMI】に設定され、設定を変えることはできません。

■ [オートジャンルセレクター]

[入]：テレビ番組や接続された機器のコンテンツの種類によって、サウンドフィールドを自動的に変更します。

[切]：この機能を使いません。

[Bluetooth設定]

■ [Bluetoothモード]

BLUETOOTH機器の音声を本機で聞いたり、BLUETOOTH対応レシーバー（ヘッドホン）で本機の音声を聞くことができます。

[受信]：本機が受信モードになり、モバイル機器からの音声を本機で出力します。

[送信]：本機が送信モードになり、本機の音声がBLUETOOTH対応レシーバーへ送信され、本機の入力を切り換えると表示窓に「BT TX」と表示されます。

[切]：本機のBLUETOOTH機能がオフになり、[Bluetooth Audio] 入力が選べません。

ご注意

ワンタッチ（NFC）で接続すると、[Bluetoothモード] が [切] になっていてもBLUETOOTH接続することができます。

■ [機器リスト]

[Bluetoothモード] が [送信] になっているときに、接続履歴および検出されたBLUETOOTH機器のリストが表示されます。

■ [Bluetoothスタンバイ]

本機がスタンバイ状態でも、[Bluetoothスタンバイ] にすることにより、BLUETOOTH機器で本機の電源を入れることができます。この機能は [Bluetoothモード] が [受信] か [送信] に設定されているときにお使いになります。

[入]：登録されたBLUETOOTH機器と接続すると自動的に本機の電源がります。

[切]：この機能を使いません。

■ [Bluetooth Codec-AAC]

この機能は [Bluetoothモード] が [受信] か [送信] に設定されているときにお使いになります。

[入]：AACコーデックが有効になります。

[切]：AACコーデックが無効になります。

ご注意

お使いの機器がAACをサポートしている場合にAACを有効にすると、高質音声が楽しめます。機器からAAC音声が聞くことができない場合は [切] を選びます。

■ [Bluetooth Codec-LDAC]

この機能は [Bluetoothモード] が [受信] か [送信] に設定されているときにお使いになります。

[入]：LDACコーデックが有効になります。

[切]：LDACコーデックが無効になります。

ご注意

お使いの機器がLDACをサポートしている場合にLDACを有効にすると、高質音声が楽しめます。機器からLDAC音声が聞くことができない場合は [切] を選びます。

■ [ワイヤレス再生品質]

LDAC再生のデータ転送レートを設定できます。この機能は [Bluetoothモード] が [送信] に設定された状態で、[Bluetooth Codec - LDAC] が [入] に設定されているときにお使いになります。

[自動]：ご使用の環境によってデータの転送速度が自動で変わります。オーディオ再生が不安定なときは、他の3つのモードをご使用ください。

[音質優先]：高ビットレートが使われます。音声は高品質で送信されますが、接続状況がよくないとき音声の再生が不安定になることがあります。

[標準]：中ビットレートが使われます。音質と安定性を両立させます。

[接続優先]：安定性が優先されます。音質は多少劣化しますが接続が安定します。接続状況が不安定なときは、この設定をおすすめします。

②【本体設定】

■ [ワイヤレスサウンド接続設定]

ワイヤレス機能の詳細設定をします。詳しくは「ワイヤレスの設定をする（サブウーファー）」（41ページ）をご覧ください。

■ [IRリピーター]

[入]：テレビのリモコン信号がバースピーカー背面から送信されます（40ページ）。

[切]：この機能を使いません。

■ [HDMI設定]

[HDMI機器制御]

[入]：[HDMI機器制御] 機能を有効にします。HDMIケーブルでつながれた機器を相互に操作することができます。

[切]：この機能を使いません。

[オーディオリターンチャンネル (ARC)]

本機とオーディオリターンチャンネル機能対応テレビのHDMI入力端子をつないで、[HDMI機器制御] を [入] に設定したときに機能します。

[自動]：テレビのデジタル音声をHDMIケーブルを経由して自動的に入力します。

[切]：この機能を使いません。

[スタンバイスルー]

本機がスタンバイ状態でも、HDMI信号をテレビに送ることができます。この機能は [HDMI機器制御] を [入] にすると使えます。

[自動]：テレビの電源が入っていて、スタンバイ状態のときに本機のHDMI出力（ARC）端子から出力します。スタンバイ状態のとき、**[入]** よりも消費電力をおさえます。

[入]：スタンバイ状態でも常にHDMI出力（ARC）端子から出力します。“プラビア”以外のテレビに接続した場合、この設定をおすすめします。

[切]：本機がスタンバイ状態のときは、信号は出力されません。スタンバイ状態のとき、**[入]** よりも消費電力をおさえます。

■ [高速起動／ネットワークスタンバイ]

[入]：スタンバイ状態からの起動時間を短くします。本機の電源を入れてすぐに本機を使うことができます。

[切]：この機能を使いません。

■ [自動電源オフ]

[入]：何も操作されないまま約20分が経過すると、自動的にスタンバイ状態になります。

[切]：この機能を使いません。

■ [自動画面表示]

- [入]：再生中に、タイトル、画面のモード、音声などを変えたときに、自動的に情報をテレビ画面に表示します。
- [切]：画面表示ボタンを押したときに、情報をテレビ画面に表示します。

■ [ソフトウェアアップデート通知]

- [入]：本機のソフトウェア最新バージョン情報を通知します（25ページ）。
- [切]：通知しません。

■ [自動アップデート設定]

[自動アップデート]

- [入]：ソフトウェアアップデートは選択した【タイムゾーン】の現地時間午前2時～5時の間で、本機を使用していない間に自動的に実行されます。ただし、【高速起動／ネットワークスタンバイ】が【切】に設定されている場合は、本機の電源を切った直後に実行されます。

[切]：この機能を使いません。

[タイムゾーン]

お住まいの地域／都市を選択してください。

ご注意

- ・ソフトウェアアップデートの内容によっては、【自動アップデート】が【切】に設定されてもアップデートが実行される場合があります。
- ・ソフトウェアアップデートはアップデートの公開から11日以内に自動的に実行されます。

■ [機器名]

[Bluetooth Audio] や【スクリーンミラーリング】機能を使うときに、わかりやすいように本機の名前を変えられます。ホームネットワークなどのときでもこの変更した名前が使われます。テレビ画面の説明に従い画面のキーボードを使って名前を入力してください。

■ [本体情報]

本機のソフトウェアバージョンと、MACアドレスを確認できます。

■ [ソフトウェアライセンス]

ソフトウェア使用許諾契約を表示します。

④ [通信設定]

■ [ネットワーク設定]

あらかじめ本機をネットワークにつなぎます。詳しくは「ネットワーク機能を使う」（16ページ）をご覧ください。

[有線LAN設定]：LANケーブルでネットワークに接続するときは、この設定を選びます。この設定を選ぶと、本機の無線LANは自動的に無効になります。

[無線LAN設定（内蔵）]：無線LANルーターでネットワークに接続するときはこの設定を選びます。

ちょっと一言

詳しくは、以下のホームページの「Q&A」をご覧ください。
<http://www.sony.jp/support/home-theater/>

■ [ネットワークの設定確認]

現在のネットワークの接続状態を表示します。

■ [ネットワーク接続診断]

ネットワークに正しくつながっているか、接続診断をします。

■ [スクリーンミラーリング周波数設定]

無線LANなどの複数のワイヤレス機器を使っていると、ワイヤレス信号が不安定になります。通信のチャンネルを設定し直すことによって接続スピードと再生の安定性が改善されることがあります。

[自動]：通常はこの設定にします。本機は自動的にスクリーンミラーリングに最適な周波数を選びます。

[CH 1]／[CH 6]／[CH 11]：選択したチャンネルが優先して使用されます。ワイヤレス接続が一番安定するチャンネルを選びます。

■ [接続サーバー設定]

接続されているホームネットワークサーバーを表示するかどうかを設定します。

■ [自動レンダラーアクセス許可]

[入]：新しく検出されたホームネットワークコントローラーからの自動アクセスを許可します。

[切]：この機能を使いません。

■ [レンダラーアクセス制御設定]

ホームネットワークコントローラーに対応している製品のリストを表示し、それぞれの製品が本機にアクセスできるかどうかの設定をします。

■ [外部機器からの操作]

[入]：本機をホームオートメーションコントローラーで操作できるようになります。

[切]：この機能を使いません。

■ [リモート起動]

[入]：ネットワークにつながっているモバイル機器を使って本機の電源を入れることができます。

[切]：この機能を使いません。

■ [入力スキップ設定]

入力切換ボタンを押して入力を選ぶとき、不要な外部入力をスキップすることができます。

[スキップしない]：選んだ入力をスキップしません。

[スキップする]：選んだ入力をスキップします。

ご注意

[スキップする]に設定すると、ホームメニューが表示されているときに入力切換ボタン押すと、アイコンが薄く表示されます。

【かんたん設定】

本機の基本設定をするために「かんたん初期設定」を、基本的なネットワーク設定をするために「かんたんネットワーク設定」を開始します。テレビ画面の指示にしたがってください。

【かんたんネットワーク設定】

「かんたんネットワーク設定」を選び、ネットワークの設定を順に行います。テレビ画面の指示にしたがってください。

【設定初期化】

■ [お買い上げ時の状態に設定]

各設定ごとにお買い上げ時の設定に戻します。選んだ設定のすべての項目がお買い上げ時の設定に戻るので、ご注意ください。

■ [個人情報の初期化]

本機に保存された個人情報を消去します。

ご注意

本機を破棄したり、譲渡、売却する場合、安全保護のためすべての個人情報を削除してください。ネットワークサービスの使用後はログアウトなど適切な処置を実行してください。

オプションメニューを使う

オプションボタンを押すと、さまざまな設定や再生中の操作ができます。表示されるオプションは、使用状況によって異なります。

共通オプション

項目	できること
【画音同期調整】	映像と音声とのズレを補正します。音声出力を映像出力より遅らせます（33ページ）。
【サウンドフィールド】	サウンドモードの設定を切り替えます（9ページ）。
【サッカーモード】	サッカーモードを選びます（10ページ）。
【ナイトモード】	ナイトモードを選びます（10ページ）。
【ボイス】	ボイスモードを選びます（10ページ）。
【リピート設定】	リピートモードを設定します。
【再生】／【再生停止】	再生を開始または停止します。
【はじめから再生】	タイトルを始めから再生します。
【カテゴリー切換】	【USB】または【Home Network】入力の ♪【ミュージック】または▣【フォト】のカテゴリーを切り替えます。カテゴリーのリスト表示が使えるときのみこの項目は使えます。

♪【ミュージック】のみ

項目	できること
【シャッフル設定】	シャッフル再生を設定します。
【スライドショーのBGM登録】	USBメモリー内の音楽ファイルを、スライドショーのBGMに登録します。

【フォト】のみ

項目	できること
【スライドショー】	スライドショーを再生します。
【スライドショーの速さ】	スライドショーの速さを設定します。
【スライドショーの効果】	スライドショーの表示方法を設定します。
【スライドショーのBGM】	<ul style="list-style-type: none">• [切] : BGM が流れません。• [My Music (USB)] : [スライドショーのBGM 登録] で登録した音楽ファイルをBGMに設定します。
【表示切換】	[グリッド表示] と [リスト表示] を切り替えます。
【回転（左）】	写真を左回りに90度回転させます。
【回転（右）】	写真を右回りに90度回転させます。
【表示】	選んだ写真を表示します。

音声と映像のずれを調節する（画音同期調整）

つないだテレビによっては、音声と映像がずれることがあります。そのようなときは、ずれを調節することができます。
選んだ入力によって調節のしかたが違います。

[HDMI1]、[HDMI2] または [HDMI3] 入力が選ばれている場合

1 オプションボタンを押す。

オプションメニューがテレビ画面に表示されます。

2 【画音同期調整】を選ぶ。

3 \leftrightarrow /ボタンで音声と映像のずれを調節し、決定ボタンを押す。

0 ms～300 msの間で25 msきざみで調節できます。

【TV】 入力の場合

1 オプションボタンを押す。

「SYNC」がバースピーカーの表示窓に表示されます。

2 \rightarrow ボタンまたは決定ボタンを押す。

3 \uparrow/\downarrow ボタンで音声と映像のずれを調節し、決定ボタンを押す。

0 ms～300 msの間で25 msきざみで調節できます。

4 オプションボタンを押す。

オプションメニュー画面が消えます。

スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器から本機を操作する (SongPal)

SongPalは、スマートフォン／タブレットから、SongPal対応のソニーモバイル機器を操作するためのアプリです。お手持ちのスマートフォンやタブレットで、Google Play (Playストア) またはApp StoreでSongPalを検索して、ダウンロードしてください。SongPalを使って、以下のことができます。

- －本機の入力、音量、よく使う設定の変更ができる。
- －ホームネットワークサーバーやスマートフォン上にある音楽コンテンツを、本機で楽しめる。
- －スマートフォンのディスプレイを使って音楽をビジュアルで楽しめる。
- －WPS機能対応のWi-Fiルーターがなくても、SongPalを使って簡単にWi-Fi接続を設定できる。
- －SongPal Link機能を使用することができる（35ページ）。

ご注意

- ・この機能をお使いになる前に、[Bluetoothモード] が [受信] になっていることをご確認ください。（28ページ）。
- ・本機はSongPalバージョン3.0以降に対応しています。
- ・SongPalは、本機のネットワーク機能（16ページ）とBLUETOOTH機能（12ページ）を使用します。
- ・SongPalの仕様および画面デザインは予告なく変更する場合があります。

Androidをお使いの場合

- 1 バースピーカーの I/O (入／スタンバイ) を押す。
電源が入ると、バースピーカーの表示窓が点灯します。
- 2 モバイル機器でSongPalを検索して、アプリをダウンロードする。
- 3 SongPalを起動する。
- 4 本機とモバイル機器をBLUETOOTH接続（12ページ）またはネットワークに接続（16ページ）する。

✿ちょっと一言

- ・NFC機能を使って本機とモバイル機器を接続できます（13ページ）。
- ・ネットワークに接続する場合は、本機を接続している同一のネットワークにモバイル機器をWi-Fiで接続します。

- 5 SongPalの画面の指示にしたがって操作する。

iPhone/iPod touchをお使いの場合

- 1 バースピーカーのI/□(入／スタンバイ)を押す。
電源が入ると、バースピーカーの表示窓が点灯します。
- 2 iPhone/iPod touchでSongPalを検索して、アプリをダウンロードする。
- 3 SongPalを起動する。
- 4 本機とiPhone/iPod touchをBLUETOOTH接続
(12ページ) またはネットワークに接続(16ページ)
する。

ちょっと一言

ネットワークに接続する場合は、本機を接続している同一のネットワークにiPhone/iPod touchをWi-Fiで接続します。

- 5 SongPalの画面の指示にしたがって操作する。

複数の機器で同じ音楽を聞く／別の場所で異なる音楽を聞く(SongPal Link)

SongPalを使って、パソコンやスマートフォンに保存した音楽や音楽配信サービスを、複数の部屋で同時に聞くことができます。

SongPal Linkについて詳しくは、下記のURLをご参照ください。
<http://www.sony.net/nasite>

“プラビアリンク”を使う

“プラビアリンク”はHDMI機器制御機能が搭載されたソニー製のテレビでご利用になります。

HDMI機器制御機能に対応している製品をHDMIケーブルでつなぐと、下記のような操作を行うことができます。

[HDMI機器制御] を [入] にしてください (29ページ)。

ご注意

- HDMI接続後、“プラビアリンク”を使う前に、接続したすべての機器と本機の電源が入っていることを確認してください。
- 接続した機器の設定によってはHDMI機器制御機能がうまく使えないことがあります。接続機器の取扱説明書をご覧ください。

電源オフ連動

テレビのリモコンでテレビの電源を切ると、本機に接続されている機器の電源も連動して切れます。

ご注意

- 本機で音楽再生中は、本機の電源は自動的には切れません。
- 電源オフ連動機能は他社の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

ワンタッチプレイ

HDMIケーブルで本機に接続された機器（ブルーレイディスクレコーダー、PlayStation®4など）のコンテンツを再生するとき、本機とテレビは自動的に電源が入り、本機の入力信号は適切な「HDMI (1/2/3)」入力に切り換わります。

ご注意

- この機能は機器によっては使えない場合もあります。
- 本機がスタンバイ状態のときに、[スタンバイスルー] を [自動] または [入] にして、接続された機器でコンテンツを再生すると、本機はスタンバイ状態のままになり、音声と画像はテレビからのみ出力されます (29ページ)。
- ワンタッチプレイ機能は他社の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

システムオーディオコントロール

テレビを見ているときに本機の電源を入れると、自動的に本機のスピーカーから音声が出力されます。

テレビのリモコンで本機の音量を調節できます。

最後にテレビを見たときに、テレビの音声が本機のスピーカーから出力されていた場合、テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入ります。

この機能は二画面機能 (P&P) の使用時も使えます。

- [TV] または [HDMI1]、[HDMI2]、[HDMI3] 入力を選んだとき、本機から音声が出力されます。
- 二画面機能を使用時に [TV] または [HDMI1]、[HDMI2]、[HDMI3] 入力以外を選んだ場合は、テレビから音声が出力されます。二画面機能をオフにすると、音声は本機から出力されます。

ご注意

- テレビによっては、本機の音量の数字がテレビ画面に表示されます。テレビ画面に表示された数字は表示窓の数字と異なる場合があります。
- システムオーディオコントロール機能は他社の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

オーディオリターンチャンネル (ARC)

HDMIケーブル1本を使うだけで本機でテレビの音声が楽しめます。設定については「オーディオリターンチャンネル (ARC)」(29ページ)をご覧ください。

ご注意

オーディオリターンチャンネル（ARC）機能は他社の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

HDMI機器制御設定連動

テレビのHDMI機器制御（“プラビアリンク”）機能を有効にすると、本機の【HDMI機器制御】も有効になります。このとき、バースピーカーの表示窓に「DONE」が表示されます。

ご注意

- ・上記の設定が無効の場合は、【HDMI機器制御】を手動で設定できます。
【HDMI機器制御】については【HDMI設定】（29ページ）をご覧ください。
- ・HDMI機器制御設定連動機能はソニー独自の機能です。ソニー製以外の機器では使えません。

オートジャンルセレクター

オートジャンルセレクターは見ている番組の情報（EPG情報）を自動的に検出し、サウンドフィールドをその番組のジャンルに合わせます。この機能はテレビとHDMI入力（1/2/3）端子に接続された機器がオートジャンルセレクター対応している場合に使えます。

この機能を使うには、以下の設定をします。

- －【HDMI設定】の【HDMI機器制御】を【入】にする（29ページ）。
- －【オートジャンルセレクター】を【入】にする（27ページ）。
- －サウンドフィールドを【ClearAudio+】にする（9ページ）。

ご注意

オートジャンルセレクター機能はソニー独自の機能です。ソニー製以外の機器では使えません。

エコーキャンセリング連動

テレビ番組を見ながらソーシャル視聴機能をお使いになるときに工コを削減できます。会話が明瞭になります。

- ・本機の入力が【HDMI1】または【HDMI2】、【HDMI3】のとき、【TV】入力に自動的に切り換わります。ソーシャル視聴機能とテレビ番組の音声は本機から出力されます。
- ・本機の入力が【TV】または【HDMI1】、【HDMI2】、【HDMI3】以外のとき、ソーシャル視聴機能の音声と再生コンテンツの音声はテレビから出力されます。

ご注意

- ・この機能は、ソーシャル視聴機能対応のテレビで使えます。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- ・本機から音声が 출력されるようにテレビの音声出力が設定されていることを確認してください。
- ・エコーキャンセリング連動機能はソニー独自の機能です。ソニー製以外の機器では使えません。

オーディオ機器コントロール

オーディオ機器コントロール対応テレビを本機に接続すると、テレビ画面にオーディオ機器コントロールアプリのアイコンが表示されます。

テレビのリモコンで本機の設定、サウンドフィールド、入力を切り換えられます。

ご注意

- ・オーディオ機器コントロールを使う場合はテレビがインターネットに接続されている必要があります。
- ・オーディオ機器コントロール機能はソニー独自の機能です。ソニー製以外の機器では使えません。

HDMI機器の接続について

- HDMIケーブル（イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブル）をご利用ください。Standard HDMIケーブルの場合、1080pやDeep Color、3D、4Kのコンテンツが正しく表示できない場合があります。
- 認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブル（イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブル）をおすすめします。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。
- つないだ機器からの音声出力信号のチャンネル数やサンプリング周波数が切り換えられた場合、音声が途切れることがあります。
- 本機の入力が「TV」のときは、HDMI出力（ARC）端子からは前回選択されたHDMI入力（HDMI入力1/2/3）の映像が outputされます。
- 本機はDeep Color、“x.v.Color”および3D、4K伝送に対応しています。
- 3Dコンテンツを楽しむには、3D表示に対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー、“PlayStation®4”など）と本機をHDMIケーブル（イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブル）でつなぎ、3Dメガネを装着したうえで、3D対応のブルーレイディスクなどを再生してください。
- 4Kコンテンツを楽しむには、本機に接続しているテレビやプレーヤー機器も4Kコンテンツに対応している必要があります。

デジタル放送用の音声（AAC）を楽しむ

AACとは、BSデジタル放送や地上デジタル放送で採用されている音声方式です。AACでは5.1chのサラウンド放送や2ヶ国語放送にも対応しています。

BSデジタル放送などのAAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器と本機を、光デジタル音声ケーブル（付属）でつなぎます。

お使いのテレビのHDMI端子がオーディオリターンチャンネル（ARC）機能（29ページ）に対応している場合は、HDMIケーブル経由でAAC音声を聞くことができます。

また、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力」の設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご覧ください。

2か国語放送の音声を切り換える

お好みの音声信号が表示窓に表示されるまで音声切換ボタンを繰り返し押す。

- 「MAIN」：主音声を再生します。
- 「SUB」：副音声を再生します。
- 「MN/SB」：主音声と副音声をミックスして再生します。

ご注意

2か国語放送でない場合に音声切換ボタンを押すと、バースピーカーの表示窓に「Not Use」が表示されます。

バースピーカーのボタンを動作しないようにする（チャイルドロック）

子供のいたずらなどによる誤操作を防ぐためバースピーカーのボタン（VOL以外のボタン）を動作しないようにすることができます。

この操作ではバースピーカーのボタンを使用します。

バースピーカーのINPUTボタンを押しながら、 VOLUME -、VOLUME +、VOLUME -ボタンを 押す。

表示窓に「LOCK」が表示されます。

リモコンでのみ本機の操作ができます。

キャンセルするには、バースピーカーのINPUTボタンを押しながら、
VOLUME -、VOLUME +、VOLUME -ボタンを押します。

表示窓に「UNLCK」が表示されます。

明るさを調整する

表示窓とLED表示（青色）の明るさを調節できます。

本体表示ボタンを繰り返し押す。

「OFF」または「DIM1」、「DIM2」が選べます。

* 「DIM1」と「DIM2」の明るさは同じです。

ご注意

「DIM2」を選ぶと表示窓が消灯します。いずれかのボタンを押すと点灯し、約10秒間操作をしないとまた消灯になります。表示窓が消えない場合もあります。

スタンバイ状態時の消費電力を おさえる

スタンバイ状態時の消費電力をおさえるには、以下の設定をします。

– [Bluetoothスタンバイ] を [切] にする（28ページ）。

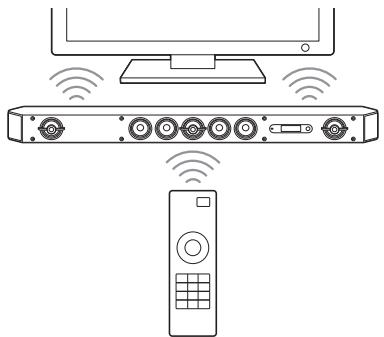
– [スタンバイスルー] を [切] にする（29ページ）。

– [高速起動／ネットワークスタンバイ] を [切] にする（29ページ）。

– [リモート起動] を [切] にする（31ページ）。

IRリピーター機能を有効にする (テレビのリモコンでテレビの操作ができない場合)

バースピーカーがテレビのリモコン受光部を隠してしまい、テレビに付属のリモコンでテレビを操作できなくなる場合があります。このようなときは本機のIRリピーター機能を有効にしてください。テレビリモコンの信号がバースピーカーの背面からテレビのリモコン受光部に送信され、リモコン操作が可能になります。



ご注意

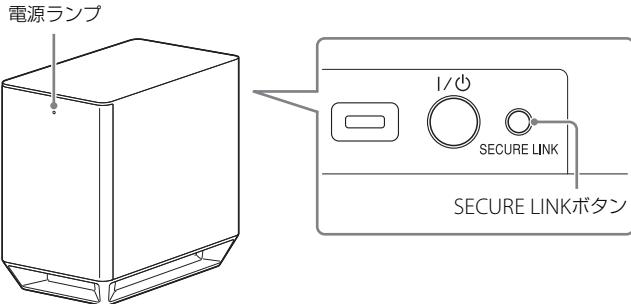
テレビのリモコンでテレビを操作できないことを確認してから、IRリピーター機能を有効にしてください（29ページ）。操作できるときにIRリピーター機能を有効にすると、テレビのリモコンからの直接の信号と本機で中継した信号が干渉しあい、正しく動作しないことがあります。

- 1 ホームボタンを押す。
ホームメニューがテレビ画面に表示されます。
- 2 [設定] - [本体設定] を選ぶ。
- 3 [IRリピーター] を選ぶ。
- 4 [入] を選ぶ。
- 5 ホームボタンを押す。
メニュー表示が消えます。

ご注意

お使いのテレビによってはIRリピーター機能が正しく働かない場合があります。その場合は、バースピーカーの位置をテレビから少し離してみてください。

ワイヤレスの設定をする(サブウーファー)



1 ホームボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

2 [設定] - [本体設定] を選ぶ。

3 [ワイヤレスサウンド接続設定] を選ぶ。

[ワイヤレスサウンド接続設定] 画面がテレビ画面に表示されます。

- [セキュアリンク]

ワイヤレス通信する機器を特定する(セキュアリンク)

バースピーカーとサブウーファーをワイヤレスでつなぐときに、セキュアリンク機能を使ってワイヤレス通信する機器を特定することができます。

自宅や近隣で複数のワイヤレスサウンド機器を使用しているときに起る混線を防ぐことができます。

1 [本体設定] から [ワイヤレスサウンド接続設定] を選ぶ。

2 [セキュアリンク] を選ぶ。

3 [入] を選ぶ。

4 サブウーファー背面のSECURE LINKボタンを押す。
数分以内に次の手順に進んでください。

5 [開始] を選ぶ。

元の画面に戻るには、[中止] を選びます。

6 [セキュアリンクの設定を完了しました。] メッセージが表示されたら、決定ボタンを押す。

サブウーファーの電源ランプがオレンジ色に点灯します。

[セキュアリンクの設定ができませんでした。] メッセージが表示されたら、画面の指示にしたがってください。

セキュアリンク機能をキャンセルするには

バースピーカーでの操作

手順3で [切] を選びます。

サブウーファーでの操作

サブウーファー後面のSECURE LINKボタンを、サブウーファーの電源ランプが緑色に点灯または点滅するまで数秒間押す。

SECURE LINKボタンはペンの先などで押してください。

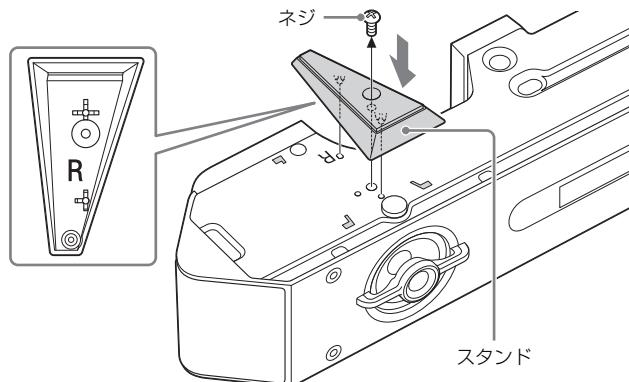
バースピーカーの角度を変える

バースピーカー底面のスタンドを取り付けると、バースピーカーの角度を変えることができます。
バースピーカー底面のスタンドは下記のように取り付けできます。

ご注意

- ・ハイレゾ音源をお楽しみいただく場合は、スタンドをつけないでお使いになることをおすすめします。
- ・バースピーカーを壁に取り付ける場合は、スタンドを取りはずしてください。

付属のネジでバースピーカー底辺の左右2箇所にスタンドを取り付ける。



ちょっと一言

スタンドの形状は左右で違います。取り付けの前にスタンドに刻印された「R」と「L」のマークをご確認ください。

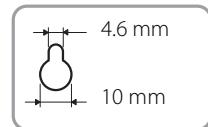
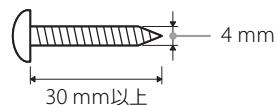
バースピーカーを壁に取り付ける

次の手順でバースピーカーを壁に取り付けることができます。

ご注意

- ・壁に取り付ける際は、事前にバースピーカー底面のスタンドを取りはずしてください(42ページ)。
- ・壁の材質や強度に合わせた市販のネジをご用意ください。壁の材質によっては破損するおそれがあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。バースピーカーは補強された壁に水平に取り付けてください。
- ・販売店や工事店に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- ・取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。

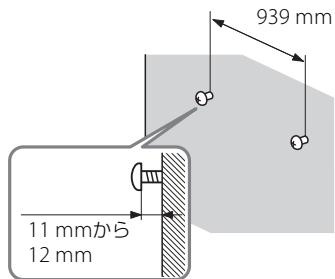
1 バースピーカー背面の穴に合う市販のネジを用意する。



バースピーカー背面の穴

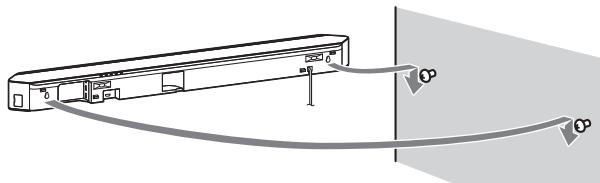
2 壁にネジをとめる。

ネジが壁から11 mmから12 mm突き出すようにとめてください。



3 バースピーカー背面の穴をネジにかける。

バースピーカー背面の穴とネジの位置を合わせてから、2か所同時に取り付けてください。

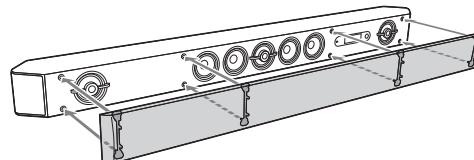


ご注意

バースピーカーを壁掛けしているときにHDMI入力3端子を利用する場合は、L型のHDMIケーブル（イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブル）をご使用ください。

グリルを取り付ける

グリルとパネル面を平行に取り付ける。



ご注意

ハイレゾ音源をお楽しみいただく場合は、グリルをつけないでお使いになることをおすすめします。

使用上のご注意

- 次のような場所には置かないでください。
 - 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残る場合があります。
 - チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。このような場合は、本機をそれらの機器から離して設置してください。
 - 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するもの近く。
- 本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本機背面の通風孔をふさぐと、内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。通風孔を絶対にふさがないでください。
- 使用中に本体の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。
- 壁掛け時は、下から3 cm以上の高さに取り付けてください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。

窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



お手入れについて

キャビネットは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。
研磨パッド、クレンザー、アルコールやベンジンなどの溶剤は使わないでください。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

2.4DS/OF4

この無線製品は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS変調方式およびOFDM変調方式を採用し、与干渉距離は40 mです。

2.4 F H 8

この無線製品は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は80 mです。

法令により本機の5 GHz帯無線装置を屋外で使用することは禁止されています。

IEEE802.11b/g/n

IEEE802.11a/n

W52	W52	W53	W56
-----	-----	-----	-----

IEEE 802.11a/b/g/n準拠 (W52/W53/W56)

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること

テレビ画面に色むらが起きたら

本機のスピーカーによりテレビ画面に色むらが起きた場合は、テレビの電源を切り、15分～30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残るときは、本機をさらにテレビから離してください。

第三者が提供するサービスに関する免責事項

第三者が提供するサービスは、予告なく、変更・停止・終了することがあります。ソニーは、そのような事態に対していかなる責任も負いません。

アップデートに関する注意

本機は、有線LANもしくは無線LANでインターネットに接続してご使用になる場合、ソフトウェアを自動で最新にアップデート（更新）する機能を有しています。

アップデートすることで、新しい機能が追加されたり、より便利かつ安定してご使用になることができます。

ソフトウェアを自動でアップデートさせたくない場合は、スマートフォン／タブレットにインストールしたSongPalを使って、本機能を無効にすることができます。

ただし、本機能を無効にしても、安定してご使用いただくため等により、ソフトウェアを自動でアップデートすることがあります。

また、本機能を無効にしても、お客様の操作で、システムソフトウェアをアップデートすることは可能です。

詳しい設定方法は「設定メニューを使う」(24ページ)をご確認ください。

ソフトウェアアップデート中は、本機をご使用いただけない場合があります。

商標について

本機はドルビーデジタル*およびDolby Digital Plus、Dolby TrueHDデコーダー、MPEG-2 AAC (LC) デコーダー、DTS**およびDTS 96/24デコーダー、DTS-HDデコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。 Dolby、ドルビー、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** DTS特許については、下記のウェブサイトをご覧ください。
<http://patents.dts.com>

DTS Licensing Limitedに基づき製造されています。DTS、DTS-HD、シンボル、およびDTSとシンボルの組み合わせは登録商標です。また、DTS-HD Master AudioはDTS 社の商標です。 © DTS, Inc. All Rights Reserved.

BLUETOOTH®とそのロゴマークは、Bluetooth SIG, INC. の商標で、ソニーはライセンスに基づき使用しています。他のトレードマークおよびトレード名称については、個々の所有者に帰属するものとします。

本機は、High-Definition Multimedia Interface (HDMI®) 技術を搭載しています。

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia InterfaceおよびHDMIロゴは、HDMI Licensing LLCの商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。

NマークはNFC Forum, Inc.の米国およびその他の国における商標あるいは登録商標です。

AndroidとGoogle PlayはGoogle Inc.の商標です。

Google CastはGoogle Inc.の商標です。

"Xperia"はSony Mobile Communications AB の商標または登録商標です。

「おサイフケータイ」は株式会社NTTドコモの登録商標です。

Apple、Appleロゴ、iPod、iPod touch及びRetinaは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。「iPhone」の商標は、アイホン株式会社からライセンスを受け使用しています。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。

「Made for iPod」、「Made for iPhone」とは、それぞれiPod、iPhone専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。本製品をiPod、又はiPhoneと共に使用すると、ワイヤレス機能に影響を及ぼす可能性があります。

"ブリビアリンク" および "BRAVIA Link" ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

"ClearAudio+"はソニー株式会社の登録商標です。

"x.v.Color" および "x.v.Color" ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

"PlayStation"は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。

Windows Mediaは米国および／またはその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。

本製品にはMicrosoftの知的財産権の対象である技術が含まれています。

Microsoftから使用許諾を得ることなく、この技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。

1995-2013 Opera® Devices SDKはOpera Software ASAの登録商標です。



Wi-Fi®、Wi-Fi Protected Access®およびWi-Fi Alliance®、およびWi-Fi CERTIFIED Miracast®は、Wi-Fi Allianceの登録商標です。

Wi-Fi CERTIFIED™、WPA™、WPA2™および、Wi-Fi Protected Setup™およびMiracast™は、Wi-Fi Allianceの商標です。

LDAC™およびLDACロゴは、ソニー株式会社の商標です。

LDACは、ソニーが開発したハイレゾ音源をBluetooth経由でも伝送可能とする音声圧縮技術です。

SBC等の既存Bluetooth向け圧縮技術とは異なり、ハイレゾ音源を低い周波数・低いビット数へダウンコンバートすることなく処理します*。また極めて効率的な符号化やパケット配分の最適化を施すことで、従来技術比約3倍**のデータ量の送信を可能とし、これまでにない高音質のBluetooth無線伝送を実現しています。

* DSDフォーマットは除く。

** 990kbps (96/48kHz) または909kbps (88.2/44.1kHz) のビットレートを選択した場合のSBC (Subband Coding)との比較。

本機には、GNU General Public License ("GPL") または GNU Lesser General Public License ("LGPL") の適用を受けるソフトウェアが含まれております。このため、お客様には GPL/LGPL の条件に従って、これらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。

GPL または LGPL、その他、本機に含まれるソフトウェアのライセンスについて、詳しくは本機の【設定】メニューの【本体設定】の【ソフトウェアライセンス】をご覧ください。

また、本機に含まれる GPL/LGPL の適用を受けるソフトウェアのソースコードは、Webで提供しております。ダウンロードするには、以下の URLへアクセスしてください。

URL : <http://oss.sony.net/Products/Linux>

ただし弊社では、このソースコードの内容に関する質問には一切お答えできません。

DSEE HXは、ソニー株式会社の商標です。

その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。



警告



火災



感電

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により死亡や大けがの原因となります。

内部に水や異物を入れない

本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火炎源を置かないでください。

→ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



禁止

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または機器を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないでください。壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



禁止

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



指示

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



禁止

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

→ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



分解禁止

雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



接触禁止

本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



指示

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
 - 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
 - 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
 - 热器具に近づけない。加熱しない。
 - 移動させるときは、電源コードを抜く。
 - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。



禁止

⚠ 注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

上に乗ったり、座ったりしない

落ちつけがの原因となることがあります。また、本機を傷める原因となります。



禁止

上に物を置かない

落ちつけがの原因となることがあります。また、本機を傷める原因となります。



禁止

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

大音量で長時間つづけて聞くかない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞くことをおすすめします。



禁止

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落下してけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



禁止

コード類は正しく配置する

電源コードやAVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



禁止

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



スラグをコンセントから抜く

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



スラグをコンセントから抜く

可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。



禁止

設置上のご注意

本機の角だけがなどをしないように、お気をつけください。

サブウーファーの取り扱いについて

サブウーファーを持ち上げるときは、スリットの中に手を入れないでください。スピーカードライバーが破損する恐れがあります。持ち上げるときは、底面を持ってください。



禁止

病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、**ワイヤレス機能を使用しない**

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。



電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。



必ず次の処理をする

- ▶ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- ▶ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

→ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。



禁止

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない、火のそばや直射日光のあるところなど高温の場所で使用・保管・放置しない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

+とーの向きを正しく入れる

+とーを逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

→ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



指示

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



指示

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

電源

電源が入らない

- 電源コードがしっかりと差し込まれているか確認する。
- 電源コードをコンセントから抜いて電源を切り、数分後に再び電源を入れてください。

映像

映像が出ない、正しく出力されない。

- 適切な入力を選んでください（6ページ）。
- パースピーカーのINPUTボタンを押しながら、VOLUME +、VOLUME -、VOLUME +ボタンを押して、出力映像解像度設定を最低にしてください。

HDMI接続時に映像が出ない。

- HDCP 2.2対応機器を接続するときは、機器をHDMI入力（1）端子に、テレビをHDMI出力（ARC）端子に接続したことを確認してください。
- HDMIでつなぐ場合、HDCP（Highbandwidth Digital Content Protection）に対応していない機器に本機をつないでいないか確認してください。つないだ機器の取扱説明書をご覧ください。

- HDMIケーブルを抜いて、差し直してください。HDMIケーブルは、奥までしっかり差し込んでください。

HDMI入力（1/2/3）端子からの3Dコンテンツがテレビ画面に表示されない。

- テレビまたはビデオ機器によっては3Dコンテンツが表示されない場合があります。対応しているHDMIの映像フォーマットを確認してください（67ページ）。

HDMI入力（1/2/3）端子からの4Kコンテンツがテレビ画面に表示されない。

- テレビまたはビデオ機器によっては4Kコンテンツが表示されない場合があります。テレビとビデオ機器の映像設定と機能を確認してください。
- HDMIケーブル（イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブル）をお使いください。

本機がスタンバイ状態のときに、テレビ映像が見れない。

- 本機がスタンバイ状態のとき、本機の電源が切れる前に選んだHDMI機器からの映像が表示されます。他の機器からのコンテンツをご覧になっている場合、コンテンツをその機器で再生し、ワンタッチプレイで操作をするか、本機の電源を入れて使いたいHDMI機器を選んでください。
- [HDMI設定] の [スタンバイスルー] を [入] にしてください（29ページ）。

テレビ全体に表示されない。

- [映像設定] の [テレビタイプ] の設定を確認してください（25ページ）。
- ディスクに記録されている映像のアスペクト比が固定されていないか確認してください。

テレビ画面に色むらが起きる。

- 色むらが起きた場合は、いったんテレビの電源を切り、15分～30分後にもう一度電源を入れてください。
- スピーカーの近くに磁気を発生するもの（テレビスタンドの留め金、医療用機器、おもちゃなど）がないように注意してください。

HDMI端子につないだ機器の映像が乱れる。

- HDMI端子につないだ機器の映像が乱れることがあります。その場合は、[映像設定] の [Video Direct] を「入」に設定してください（26ページ）。

音声

本機からテレビの音声が出ない

- ホームメニューから [TV] を選ぶ（6ページ）。
- テレビと本機の電源を入れる順番によっては、本機が消音状態になり、本機の表示窓に「Muting」と表示される場合があります。その場合は、テレビの電源を入れてから、本機の電源を入れてください。
- テレビ（ブラビア）のスピーカー設定をオーディオシステムに切り換えてください。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビと本機をつないでいるHDMIケーブル、光デジタル音声ケーブル、またはアナログ音声ケーブルの接続を確認する（スタートガイド（別冊）を参照）。
- テレビの音量を上げる、または消音状態を解除する。
- オーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応しているテレビをHDMI接続しているときは、テレビ側のHDMI入力（ARC）端子に接続されているか確認する（スタートガイド（別冊）を参照）。

→ オーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応していないテレビをHDMI接続しているときは、光デジタル音声ケーブルも接続する。HDMI接続だけではテレビの音が出ません（スタートガイド（別冊）を参照）。

- [HDMI機器制御] を「入」にして、[オーディオリターンチャンネル（ARC）] を「自動」に設定してください。（29ページ）

本機とテレビの両方から音が出る

- 本機またはテレビを消音する。

本機から出るテレビの音声が映像より遅れる

- [画音同期調整] が [25ms] ～ [300ms] に設定されていたら、[0ms] に設定する。

バースピーカーにつないだ機器の音声が出ない、または音が小さい

- リモコンの音量+ボタンを押して、音量を上げる（60ページ）。
- リモコンの消音ボタンや音量+ボタンを押して、消音機能を解除する（60ページ）。
- 正しい入力を選んでいるか確認する。また、リモコンの入力切換ボタンを繰り返し押して入力を切り換えてみる（6ページ）。
- つないだ機器の端子と本機の端子が、奥までしっかり差し込まれているか確認する。

サブウーファーの音声が出ない、または小さい

- リモコンのSW音量+ボタンを押して、サブウーファーの音量を上げる（60ページ）。
- サブウーファーの電源ランプが緑色に点灯していることを確認する。緑色に点灯していない場合は、「ワイヤレスサウンドシステム（サブウーファー）」の「サブウーファーから音声が出ない」（56ページ）の項目をご覧ください。

- サブウーファーは、低音を再生するためのスピーカーです。低音の少ない入力ソース（テレビ放送など）では、サブウーファーの音が聞こえにくいことがあります。
- 著作権保護されたコンテンツを再生した場合は、サブウーファーから音は出ません。

サラウンド効果が得られない

- サウンドフィールドの設定と入力信号によっては、サラウンド処理による臨場感が得られないことがあります。また、番組やディスクによってはサラウンド成分が少ないことがあります。
- マルチチャンネルの音声を再生するには、つないだ機器のデジタル音声設定を確認する。
詳しくは、接続機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

USB機器

USB機器が認識されない。

- 以下を試してください。
 - ① 本機の電源を切る。
 - ② USB機器を抜いて、つなぎ直す。
 - ③ 本機の電源を入れる。
- USB機器（7ページ）が \downarrow （USB）端子にしっかりとつながっているかどうか確認してください。
- USB機器やUSBケーブルが破損していないか確認してください。
- USB機器がオンになっているかどうか確認してください。
- USB機器がハブを経由して本機とつながっている場合は、USB機器をハブからはずして、本機に直接つないでください。

BLUETOOTH

BLUETOOTH接続ができない

- バースピーカーのランプ（青色）が点灯していることを確認する（12ページ）。

本機の状態	ランプ（青色）の状態
BLUETOOTHペアリング中	速く点滅
BLUETOOTH接続待機中	点滅
BLUETOOTH接続完了	点灯
BLUETOOTHスタンバイ中 (電源オフ時)	消灯

- 接続相手のBLUETOOTH機器に電源が入っているか、BLUETOOTH機能が有効になっているか確認する。
- 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づける。
- 本機とBLUETOOTH機器を再度、ペアリングする。
BLUETOOTH機器側で、本機の登録を解除する必要がある場合があります。
- ペアリング情報が消えている場合があります。もう一度ペアリング操作を行ってください（12ページ）。

ペアリングできない

- 本機とBLUETOOTH機器をなるべく近づけてからペアリングを行う。
- 無線LANや他の2.4 GHz無線機器や電子レンジなどの影響を受けていないか確認する。電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使う。

NFC機能が使えない。

- NFC機能はBLUETOOTH対応レシーバー（ヘッドホンなど）では働きません。BLUETOOTH対応レシーバー（ヘッドホンなど）で音楽を聞く場合は、「BLUETOOTH対応レシーバー（ヘッドホンなど）に送信して音声を聞く」（14ページ）をご覧ください。

つないだBLUETOOTH機器からの音が出ない

- パースピーカーのランプ（青色）が点灯していることを確認する（12ページ）。
- 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づける。
- 無線LANや他のBLUETOOTH機器、電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使う。
- 本機とBLUETOOTH機器との間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除く。
- 接続相手のBLUETOOTH機器の位置を変える。
- Wi-Fiルーターやパソコンなどの無線LAN周波数を5 GHz帯に切り換えてみる。
- BLUETOOTH機器側の音量を上げる。

ネットワーク接続

ネットワークにつながらない。

- ネットワークの接続と設定（31ページ）を確認してください。

無線LAN接続

【WPS（プッシュボタン方式）】を行ったあとにパソコンをインターネットにつなぐことができない。

- ルーターの設定をする前にWi-Fi保護設定機能を使うと、ルーターのワイヤレス設定が自動的に変わることがあります。その場合はパソコンのワイヤレス設定を変えてください。

本機をネットワークにつなげない、またはネットワーク接続が不安定になる。

- 無線LANルーターの電源がオンになっていることを確認してください。
- ネットワークの接続と設定を確認してください（31ページ）。
- 壁の素材、ラジオ電波の状態、本機と無線LANルーター間の障害物などの使用環境によって、通信距離が短くなることがあります。本機と無線LANルーターを近づけてください。
- 電子レンジ、BLUETOOTH機器、デジタルコードレス機器などの2.4 GHzの周波数帯域を使う機器は、通信に影響を与えることがあります。それらの機器を遠ざけるか、電源を切ってください。
- 特に本機のBLUETOOTH機能を使っているときは無線LAN接続が使用環境により不安定になることがあります。使用環境を検討してください。

ワイヤレスルーターがワイヤレスネットワークのリストに表示されない。

- 戻るボタンを押して前の画面に戻り、【無線LAN設定（内蔵）】をお試しください（17ページ）。それでもワイヤレスルーターが検出されないときは、ネットワークリストから【新しい接続先の登録】を選んでから【手動登録】を選び、ネットワーク名（SSID）を手動で入力します。

ワイヤレスサウンドシステム（サブウーファー）

サブウーファーから音声が出ない

- サブウーファーの電源コードがしっかりと差し込まれているか確認する（スタートガイド（別冊）を参照）。
- サブウーファーの電源ランプが消灯している。
 - サブウーファーの電源コードがしっかりと差し込まれているか確認する。
 - サブウーファーのI/V（入／スタンバイ）ボタンを押して電源を入れる。
- サブウーファーの電源ランプが緑色にゆっくり点滅、または、赤色に点灯している。
 - サブウーファーの電源ランプが緑色に点灯するようにサブウーファーの位置をバースピーカーの近くに動かす。
 - 「ワイヤレスの設定をする（サブウーファー）」（41ページ）の手順を行う。
 - ワイヤレスサウンドシステムの接続状態を確認する（41ページ）。
- サブウーファーの電源ランプが緑色に速く点滅している。
 - お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
- サブウーファーの電源ランプが赤色に点滅している。
 - サブウーファーのI/V（入／スタンバイ）ボタンを押して電源を切り、サブウーファーの通気孔がふさがっていないか確認する。
- サブウーファーは、低音を再生するためのスピーカーです。低音の少ない入力ソース（テレビ放送など）では、サブウーファーの音が聞こえにくいことがあります。
- リモコンのSW音量+ボタンを押して、サブウーファーの音量を上げる（60ページ）。

音が途切れる、ノイズが出る

- 無線LANや電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器から離れて使う。
- バースピーカーとサブウーファーとの間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除く。
- バースピーカーとサブウーファーをできるだけ近づける。
- Wi-Fiルーターやパソコンなどの無線LAN周波数を2.4 GHz帯に切り換えてみる。
- テレビ、ブルーレイディスクレコーダーなどの無線LANを有線LANに切り換えてみる。

リモコンが機能しない

本機のリモコンが機能しない

- バースピーカーのリモコン受光部に向けて操作する（58ページ）。
- リモコンと本機との間に障害物を置かない。
- 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り換える。
- リモコンの正しいボタンを押しているか確認する。

テレビのリモコンが機能しない

- IRリピーター機能を有効にする（40ページ）。

その他

HDMI機器制御がうまく働かない

- HDMI接続を確認する（スタートガイド（別冊）を参照）。
- テレビのHDMI機器制御機能の設定を行う。
テレビ側の設定方法については、テレビに付属の取扱説明書をご覧ください。
- つないだ機器が“プラビアリンク”に対応していることを確認する。
- つないだ機器のHDMI機器制御設定を確認する。
お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 本機の電源コードを抜き差ししたときは、15秒以上待ってから動作させる。
- 映像機器の音声出力をHDMIケーブル以外で本機につなぐと、“プラビアリンク”が影響して音声が出ないことがあります。その場合は、[HDMI機器制御] の設定を【切】にする（29ページ）か、映像機器の音声出力端子もテレビにつないでください。
- “プラビアリンク”機能で制御できる機器の種類と数は、HDMI CEC規格で以下のとおり制限されています。
 - 録画機器（ブルーレイディスクレコーダー、DVDレコーダーなど）：3台まで
 - 再生機器（ブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなど）：本機を含む3台まで
 - チューナー関連機器：4台まで
 - オーディオシステム（AVアンプ／ヘッドホン）：本機1台のみ

バースピーカーの表示窓に「PRTCT(プロテクト)」、「PUSH」、「POWER」と点滅表示される

- **I/O**（入／スタンバイ）ボタンを押して電源を切り、表示が消えたら電源コードを抜き、バースピーカーの通気孔がふさがっていないか点検する。

本機の表示窓に「BT TX」と表示される

- リモコンの受信/送信ボタンを押して [BLUETOOTHモード] を [受信] に切り換える。
「BT TX」と表示されている場合は、[BLUETOOTHモード] が [送信] になっています（14ページ）。リモコンの受信/送信ボタンを押すと [BLUETOOTHモード] が [受信] に切り換わり、本機の表示窓に選択している入力が表示されます（28ページ）。

テレビの各種センサーが正常に動作しない

- バースピーカーの置きかたによっては、バースピーカーがテレビの各種センサー（明るさセンサーなど）や、リモコン受光部、赤外線方式3Dグラス対応の3Dテレビの「3Dグラス用発信部（赤外線通信）」、無線通信をさえぎる可能性があります。その場合は、各種センサーなどが正常に動作する位置までバースピーカーをテレビから離してください。各種センサーやリモコン受光部の位置については、テレビに付属の取扱説明書をご覧ください。

リセット

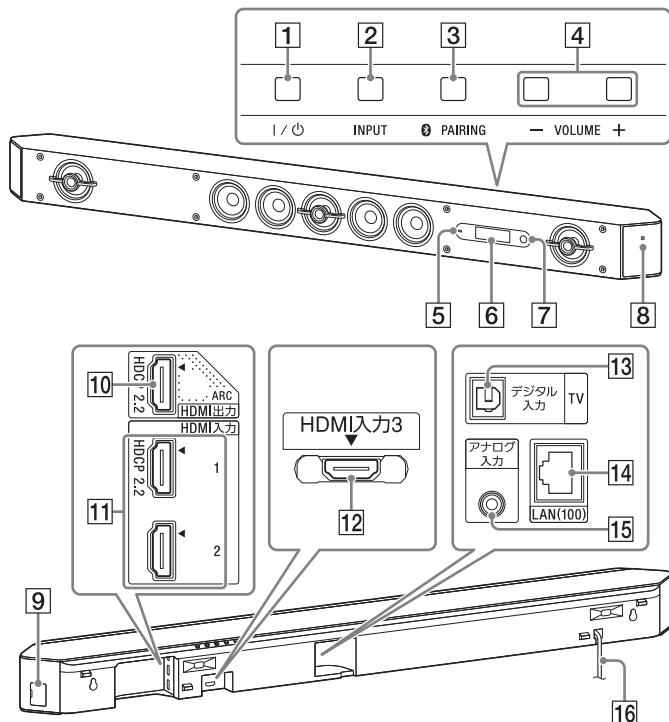
上記の処置をしても正常に動作しないときはリセットしてください。

- 1 リモコンの電源ボタンを押して本機の電源を入れる。
- 2 ホームボタンを押す。
- 3 ホームメニューから [設定] - [設定初期化] を選ぶ（32ページ）。
- 4 [お買い上げ時の状態に設定] を選ぶ。
- 5 初期化したい項目を選ぶ。
- 6 [実行] を選ぶ。

初期化をキャンセルするには
手順6で [中止] を選ぶ。

各部の名前と働き

バースピーカー



正面

① **I/O (入／スタンバイ) ボタン**

② **INPUT (入力切換) ボタン**

③ **PAIRING (ペアリング) ボタン**

④ **VOLUME (音量) +／-ボタン**

⑤ **ランプ**

- 青色で速く点滅：BLUETOOTHペアリング中
- 青色で点滅：BLUETOOTH接続待機中
- 青色で点灯：BLUETOOTH接続完了

⑥ **表示窓**

⑦ **リモコン受光部**

⑧ **Nマーク**

NFC機能を使うときは、NFC機能対応機器をここにタッチします。

背面

⑨ **ψ(USB) 端子**

⑩ **HDMI出力 (ARC) 端子**

HDCP 2.2に対応しています。

⑪ **HDMI入力 1/2端子**

HDMI入力 1端子は、HDCP 2.2に対応しています。

⑫ **HDMI入力 3端子**

バースピーカーを壁掛けで使用する際は、L型のHDMIケーブル（イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブル）をご使用ください。

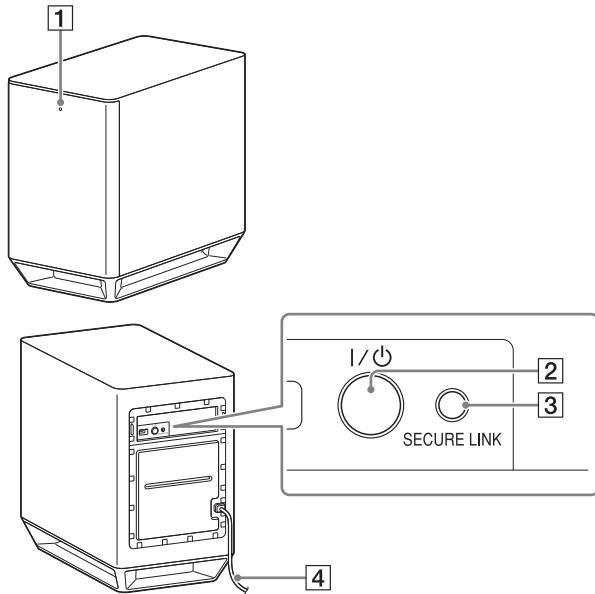
⑬ **デジタル入力 (TV) 端子**

⑭ **LAN (100) 端子**

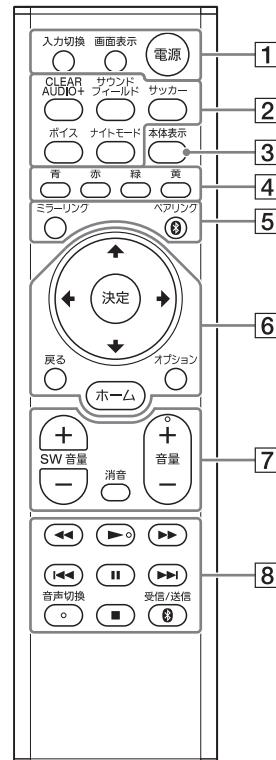
⑮ **アナログ入力端子**

⑯ **電源コード**

サブウーファー



リモコン



音声切換ボタン、▶ (再生) ボタン、音量+ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

① 入力切換ボタン (6ページ)

再生する機器を選びます。

画面表示ボタン

再生情報をテレビ画面に表示します。

電源ボタン

本機の電源を入れる、またはスタンバイ状態にします。

② サウンドフィールドボタン (9ページ)

サウンド効果を選びます。

ClearAudio+、映画、映画2、ミュージック、ゲームスタジオ、
ミュージックアリーナ、スタンダード

③ 本体表示ボタン (39ページ)

表示窓とLED表示の明るさを調整します。

④ カラー ボタン (青／赤／緑／黄)

各種メニューへショートカットできます。

⑤ ミラーリングボタン (19ページ)

[スクリーンミラーリング] を選びます。

ペアリングボタン (12ページ)

本機をペアリング中の状態にします。

⑥ オプションボタン (9、32ページ)

選択できるオプション機能をテレビ画面または表示窓に表示します。(選んだ機能によって表示される場所が異なります。)

戻るボタン

ひとつ前の表示画面に戻ります。

↑/▼/◀/▶ボタン

上下左右に動かして項目を選びます。

決定ボタン

選んだ項目を決定します。

ホームボタン (24ページ)

ホームメニューを表示または非表示にします。

⑦ 消音ボタン

音を一時的に消します。

音量+/-ボタン

音量を調節します。

SW (サブウーファー) 音量+/-ボタン

低音の音量を調節します。

⑧ 再生操作ボタン

詳しくは「聞く／見る」(6ページ)をご覧ください。

◀◀/▶▶ (早戻し／早送り) ボタン

早戻しや早送りをします。

◀◀/▶▶ (前へ／後へ) ボタン

前または次のトラック／ファイルの先頭に進みます。

▶ (再生) ボタン

再生を開始したり、再生を再開（つづき再生）します。

II (一時停止) ボタン

一時停止または再生を再開します。

■ (停止) ボタン

再生を停止します。

音声切換ボタン (38ページ)

音声フォーマットを選びます。

受信/送信ボタン（28ページ）

[Bluetoothモード] の [受信] と [送信] を切り替えます。

再生できるファイルの種類

ミュージック

フォーマット	拡張子
MP3 (MPEG-1 Audio Layer III) ¹⁾	.mp3
AAC/HE-AAC ^{1),2)}	.m4a, .aac ³⁾
WMA9 Standard ²⁾	.wma
WMA10 Pro ³⁾	.wma
LPCM ¹⁾	.wav
FLAC ²⁾	.flac, .fla
Dolby Digital ^{1),3)}	.ac3
DSF ²⁾	.dsf
DSDIFF ^{2),4)}	.dff
AIFF ²⁾	.aiff, .aif
ALAC ²⁾	.m4a
Vorbis ³⁾	.ogg
Monkey's Audio ³⁾	.ape

フォト

フォーマット	拡張子
JPEG	.jpeg, .jpg, .jpe
PNG	.png ⁵⁾
GIF	.gif ⁵⁾

¹⁾ 本機は拡張子が「.mka」のファイルも再生できますが、ホームネットワーク上にある場合は再生できません。

²⁾ ホームネットワークサーバー上にある場合、再生できないことがあります。

³⁾ ホームネットワークサーバー上にある場合、再生できません。

⁴⁾ DST エンコードされたファイルは再生できません。

⁵⁾ アニメーションPNGまたはアニメーションGIFファイルは再生できません。

ご注意

- ・ファイルのフォーマットや圧縮状況、録画状態、またはホームネットワークサーバーの状態によって再生できないことがあります。
- ・パソコンで記録や編集したファイルは再生できないことがあります。
- ・ファイルによっては早送り／早戻し再生ができないことがあります。
- ・デジタル著作権管理（DRM）などで保護されたファイルや、ロスレスなどでエンコードされたファイルは再生できません。
- ・本機はUSB機器内の、以下のファイルおよびフォルダーを認識します：
 - － ルートフォルダーを含め、9階層目までのフォルダー
 - － 1つの階層にある500番目までのファイル
- ・本機はホームネットワークサーバー内の、以下のファイルおよびフォルダーを認識します：
 - － 19階層目までのフォルダー
 - － 1つの階層にある999番目までのファイル／フォルダー
- ・USB機器によっては、本機で再生できないことがあります。
- ・本機はマスストレージクラス（MSC）機器（フラッシュメモリーやハードディスクなど）、静止画像キャプチャデバイスクラス（SCID）機器、101キーボードを認識します。

再生対応フォーマット

以下の音声フォーマットに対応しています。

フォーマット	入力	TV
HDMI1		TV
HDMI2		(DIGITAL IN)
HDMI3		
LPCM 2ch	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
LPCM 5.1ch	<input type="radio"/>	—
LPCM 7.1ch	<input type="radio"/>	—
Dolby Digital	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Dolby True HD、Dolby Digital Plus	<input type="radio"/>	—
DTS	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
DTS-ES Discrete 6.1、 DTS-ES Matrix 6.1	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
DTS96/24	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
DTS-HD High Resolution Audio	<input type="radio"/>	—
DTS-HD Master Audio	<input type="radio"/>	—
DTS-HD LBR	<input type="radio"/>	—
DSD	<input type="radio"/>	—
MPEG-2 AAC	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

○：対応

—：非対応

ご注意

HDMI入力1/2/3端子は、スーパーオーディオCDやDVDオーディオなどのコンピューターテクションが含まれる音声フォーマットは入力しません。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や映像方式の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェック

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはソニーの相談窓口へ

ソニーの相談窓口（裏表紙）へご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：HT-ST9
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカーと型名
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間にについて

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

主な仕様

バースピーカー (SA-ST9)

アンプ部

実用最大出力（非同時駆動、JEITA*）

フロントL／フロントRスピーカーブロック：75 W × 2（各チャンネル6 Ω、1 kHz）

センタースピーカーブロック：75 W × 5（各チャンネル6 Ω、1 kHz）

センタートゥイーター ブロック：75 W（6 Ω、10 kHz）

入力

HDMI入力（1**/2/3）

デジタル入力（TV）

アナログ入力

出力

HDMI出力**（ARC）

* JEITA（電子情報技術産業協会）規定による測定値です。

** HDMI入力1端子とHDMI出力（ARC）端子はHDCP 2.2規格に対応しています。HDCP 2.2は4K画像などのコンテンツ用に新しく強化された著作権保護技術です。

HDMI部

端子

19ピン基準コネクター（Type A）

USB部

↓(USB) 端子：

Aタイプ（USBメモリー、メモリーカードリーダー、デジタルスチルカメラ）

LAN部

LAN（100）端子

100BASE-TX端子

無線LAN部

基準コンプライアンス

IEEE 802.11 a/b/g/n

使用周波数帯域

2.4 GHz、5 GHz

BLUETOOTH部

通信方式

BLUETOOTH標準規格 Ver.3.0

出力

BLUETOOTH標準規格 Power Class 1

最大通信距離

見通し距離約30 m¹⁾

登録台数

9台まで

使用周波数帯域

2.4 GHz帯（2.4 GHz～2.4835 GHz）

変調方式

FHSS

対応BLUETOOTHプロファイル²⁾

A2DP1.2（Advanced Audio Distribution Profile）

AVRCP1.5（Audio Video Remote Control Profile）

対応コーデック³⁾

SBC⁴⁾、AAC⁵⁾、LDAC

対応コンテンツ保護

SCMS-T方式

伝送帯域（A2DP）

20 Hz～20,000 Hz（44.1 kHzサンプリング時）

¹⁾ 通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わることがあります。

²⁾ BLUETOOTHプロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したものです。

³⁾ 音声圧縮変換方式のことです。

⁴⁾ Subband Codec の略です。

⁵⁾ Advanced Audio Codingの略です。

フロントL／フロントRスピーカーブロック部

形式

同軸2ウェイスピーカーシステム
アコースティックサスペンション型

使用スピーカー

ウーファー：65 mm コーン型、磁性流体スピーカー
トゥイーター：18 mm ソフトドーム型

センタースピーカーブロック部

形式

センター
同軸2ウェイスピーカーシステム
アコースティックサスペンション型
サテライト
フルレンジスピーカーシステム
アコースティックサスペンション型

使用スピーカー

センター
ウーファー：65 mm コーン型、磁性流体スピーカー
トゥイーター：18 mm ソフトドーム型
サテライト
65 mm コーン型、磁性流体スピーカー

一般

電源

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

電気用品安全法による表示：60 W
スタンバイ状態のとき：0.5 W以下（詳しくは、39ページをご覧ください。）

最大外形寸法（約）（幅／高さ／奥行き）

1,130 mm × 88 mm × 128 mm（グリル非装着、スタンド非装着時、
突起含む）
1,130 mm × 88 mm × 133 mm（グリル装着、スタンド非装着時）
1,130 mm × 100 mm × 129 mm（グリル非装着、スタンド装着時、
突起含む）
1,130 mm × 101 mm × 136 mm（グリル装着、スタンド装着時）

質量（約）

6.8 kg（グリル非装着、スタンド非装着時）

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。

対応iPod/iPhone

BLUETOOTH技術は、以下のモデルに対応しています。本機につないで使用する前にiPod/iPhoneを最新のソフトウェアにアップデートしてください。
iPhone 6 Plus/iPhone 6/iPhone 5s/iPhone 5c/iPhone 5/iPhone 4s/
iPhone 4/iPhone 3GS
iPod touch (5th generation) /iPod touch (4th generation)

サブウーファー（SA-WST9）

実用最大出力（非同時駆動、JEITA*）

200 W、2 Ω、100 Hz

* JEITA（電子情報技術産業協会）による測定値です。

形式

サブウーファーシステム
パッシブラジエーター型

使用スピーカー

180 mm コーン型
200 mm × 300 mm コーン型、パッシブラジエーター

電源

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

電気用品安全法による表示：30 W
スタンバイ状態のとき：0.5 W以下
最大外形寸法（約）（幅／高さ／奥行き）
248 mm × 403 mm × 426 mm

質量（約）

16.0 kg

ワイヤレストランシッター／レシーバー部

通信方式

Wireless Sound Specification version 3.0

使用周波数帯域

5.2 GHz 帯 (5.180 GHz - 5.240 GHz)

変調方式

DSSS

本機で対応している映像フォーマット

入力／出力 (HDMIリピーターブロック)

フォーマット	2D	3D		
		Frame packing	Side-by-Side (Half)	Over-Under (Top-and-Bottom)
4096 × 2160p @ 59.94/60 Hz ¹⁾	○	—	—	—
4096 × 2160p @ 50 Hz ¹⁾	○	—	—	—
4096 × 2160p @ 23.98/24 Hz ²⁾	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 59.94/60 Hz ¹⁾	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 50 Hz ¹⁾	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 29.97/30 Hz ²⁾	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 25 Hz ²⁾	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 23.98/24 Hz ²⁾	○	—	—	—
1920 × 1080p @ 59.94/60 Hz	○	—	○	○
1920 × 1080p @ 50 Hz	○	—	○	○
1920 × 1080p @ 29.97/30 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080p @ 25 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080p @ 23.98/24 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080i @ 59.94/60 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080i @ 50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 59.94/60 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 29.97/30 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 23.98/24 Hz	○	○	○	○
720 × 480p @ 59.94/60 Hz	○	—	—	—
720 × 576p @ 50 Hz	○	—	—	—
640 × 480p @ 59.94/60 Hz	○	—	—	—

¹⁾ YCbCr 4:2:0 / 8bit対応のみ

²⁾ 8bit対応のみ

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがあります。ご了承ください。

BLUETOOTH無線技術について

BLUETOOTH無線技術は、パソコンやデジタルカメラなどのデジタル機器同士で通信を行うための近距離無線技術です。およそ10m程度までの距離で通信を行うことができます。必要に応じて2つの機器をつなげて使うのが一般的な使いかたですが、1つの機器に同時に複数の機器をつなげて使うこともあります。

無線技術によってUSBのように機器同士をケーブルでつなぐ必要はなく、また、赤外線技術のように機器同士を向かい合わせたりする必要もありません。例えば片方の機器をかばんやポケットに入れて使うこともできます。

BLUETOOTH標準規格は世界中の数千社の会社が賛同している世界標準規格であり、世界中のさまざまなメーカーの製品で採用されています。

BLUETOOTH機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したもので。本機は下記のBLUETOOTHバージョンとプロファイルに対応しています。

対応BLUETOOTHバージョン：

- －BLUETOOTH標準規格Ver. 3.0

対応BLUETOOTHプロファイル：

- －A2DP 1.2 (Advanced Audio Distribution Profile)：高音質な音楽コンテンツを送受信する。

- －AVRCP 1.5 (Audio Video Remote Control Profile)：再生、一時停止、停止など、AV機器を操作する。

ご注意

- BLUETOOTH機能を使うには、相手側BLUETOOTH機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。ただし、同じプロファイルに対応していても、BLUETOOTH機器の仕様により機能が異なる場合があります。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、送信側での音声・音楽再生に比べて、本機側での再生がわずかに遅れます。

通信有効範囲

見通し距離で約30m以内で使用してください。

以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- －BLUETOOTH接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- －無線LANが構築されている場所
- －電子レンジを使用中の周辺
- －その他の電磁波が発生している場所

他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN (IEEE802.11b/g) は同一周波数帯(2.4 GHz)を使用するため、無線LANを搭載した他の機器の近辺で使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- －本機とBLUETOOTH機器を接続するときは、他の無線LAN搭載機器から10m以上離れたところで行う。
- －10m以内で使用する場合は、無線LANの電源を切る。

他機器への影響

BLUETOOTH機器が発生する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- ー病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- ー自動ドアや火災報知機の近く

ご注意

- 本機は、BLUETOOTH無線技術を使用した通信時のセキュリティーとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティー機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティーが充分でない場合があります。BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。
- BLUETOOTH技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器は、Bluetooth SIGの定めるBLUETOOTH標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、BLUETOOTH標準規格に適合していても、BLUETOOTH機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。

電波法に基づく認証について

本機に内蔵された無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機に内蔵の無線装置を分解／改造すること
- 本機に内蔵の無線装置に貼ってある証明ラベルをはがすこと

索引

数字

24p出力 26
4K出力 26

あ行

映像設定 25
オーディオリターンチャンネル (ARC) 29
オーディオDRC 27
オートジャンルセレクター 27
お買い上げ時の状態に設定 32
オプションメニュー 32
音声出力 27
音声設定 27

か行

外部機器からの操作 31
画音同期調整 33
かんたん設定 32
かんたんネットワーク設定 32
機器名 30
機器リスト 28
高速起動／ネットワークスタンバイ 29
個人情報の初期化 32

さ行

サウンドフィールド 9
サッカーモード 10
サブウーファー 41, 56
自動アップデート 30
自動アップデート設定 30
自動画面表示 30
自動電源オフ 29
自動レンダラーアクセス許可 31
出力映像解像度設定 25
スクリーンミラーリング 19
スクリーンミラーリング周波数設定 31
スタンバイスルー 29

スライドショー 33

セキュアリンク 41

接続サーバー設定 31

設定初期化 32

ソフトウェアアップデート 25

ソフトウェアアップデート通知 30

ソフトウェアライセンス 30

た行

タイムゾーン 30

多重音声 38

チャイルドロック 39

通信設定 30

テレビタイプ 25

な行

ナイトモード 10
入力スキップ設定 31
入力レベル抑制設定 — Analog 27
ネットワーク 16
ネットワークコンテンツ 24p出力 26
ネットワーク接続診断 31
ネットワーク設定 30
ネットワークの設定確認 31

は行

プラビアリンク 36
プロテクト表示 57
ホームネットワーク機能 18
ボイス 10
本体情報 30
本体設定 29
本体表示 39

ま行

ミュージックサービス 20

NFC 13

PRTCT 57

SBM 26

ら行

リセット 58

SongPal 34

リモート起動 31

USB 7

レンダラーアクセス制御設定 31

Video Direct 26

わ行

ワイヤレス再生品質 28

ワイヤレスサウンド接続設定 29

アルファベット

ARC (オーディオリターンチャンネル) 29

BLUETOOTH 12, 68

Bluetooth Codec—AAC 28

Bluetooth Codec—LDAC 28

Bluetoothスタンバイ 28

Bluetooth設定 28

Bluetoothモード 28

DSEE HX 11, 27

Google Cast 21

HDMI Deep Color出力 26

HDMI映像出力フォーマット 26

HDMI機器制御 29

HDMI設定 29

IRリピーター 29, 40

ソフトウェア使用許諾契約書

本契約は、ソニー株式会社（以下「ソニー」とします）とお客様との間でのソニーソフトウェア（コンピューターソフトウェア、マニュアルなどの関連書類及び電子文書並びにそれらのアップデート・アップグレード版を含み、以下「許諾ソフトウェア」とします）の使用権の許諾に関する条件を定めるものです。許諾ソフトウェアをご使用いただく前に、本契約をお読み下さい。お客様による許諾ソフトウェアの使用開始をもって、本契約にご同意いただいたものとします。

なお、許諾ソフトウェアの中には、ソニー以外のソフトウェアの権利者が定める使用許諾条件（GNU General Public license (GPL)、Lesser/Library General Public License (LGPL)を含みますが、これに限られるものではありません）を伴うソフトウェア（以下「対象外ソフトウェア」とします）が含まれている場合があります。対象外ソフトウェアのご使用は、各権利者の定める使用許諾条件に従っていたるものとします。

第1条（総則）

許諾ソフトウェアは、日本国内外の著作権法並びに著作者の権利及びこれに隣接する権利に関する諸条約その他知的財産権に関する法令によって保護されています。許諾ソフトウェアは、本契約の条件に従いソニーからお客様に対して使用許諾されるもので、許諾ソフトウェアの著作権等の知的財産権はお客様に移転いたしません。

第2条（使用権）

ソニーは、許諾ソフトウェアを、お客様がお持ちの許諾ソフトウェアに対応したデバイス（以下「指定デバイス」とします）上で、私的目的で使用する、非独占的な権利をお客様に許諾します。

第3条（権利の制限）

- お客様は、許諾ソフトウェアの全部又は一部を複製、複写、譲渡、販売したり、これに対する修正、追加等の改変をすることはできないものとします。また、許諾ソフトウェアに含まれるトレードマークやその他の権利標記等の表示を削除したり、外観の変更をしてはならないものとします。
- お客様は、別途明示的に承諾されている場合を除き、許諾ソフトウェアを再使用許諾、貸与又はリースその他の方法で第三者に使用させてはならないものとします。
- お客様は、別途明示的に承諾されている場合を除き、許諾ソフトウェアの一部又はその構成部分を許諾ソフトウェアから分離して使用しないものとします。
- お客様は、許諾ソフトウェアを用いて、ソニー又は第三者の著作権等の権利を侵害する行為を行ってはならないものとします。
- お客様は、許諾ソフトウェアに関しリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等のソースコード解析作業を行ってはならないものとします。
- 許諾ソフトウェアの使用に伴い、許諾ソフトウェアが自動的に許諾ソフトウェアで用いるためのデータファイルを作成する場合があります。この場合、当該データファイルは許諾ソフトウェアと看做されるものとします。

第4条（許諾ソフトウェアの権利）

許諾ソフトウェアに関する著作権等一切の権利は、ソニー、ソニーの関連会社又はソニーが本契約に基づきお客様に対して使用許諾を行うための権利をソニー又はソニーの関連会社に許諾した原権利者（以下「原権利者」とします）に帰属するものとし、お客様は許諾ソフトウェアに関して本契約に基づき許諾された使用権以外の権利を有しないものとします。

第5条（責任の範囲）

1. ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアにエラー、バグ等の不具合がないこと、若しくは許諾ソフトウェアが中断なく稼動すること又は許諾ソフトウェアの使用がお客様及び第三者に損害を与えないことを保証しません。但し、ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、当該エラー、バグ等の不具合に対応するため、許諾ソフトウェアの一部を書き換えるソフトウェア若しくはバージョンアップの提供による許諾ソフトウェアの修補又は当該エラー、バグ等についての問い合わせ先の通知を行うことがあります。本項に定めるソフトウェア及びバージョンアップの提供方法又は問い合わせ先の通知方法はソニー、ソニーの関連会社又は原権利者がその裁量により定めるものとします。また、ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアが第三者の知的財産権を侵害していないことを保証いたしません。
2. 許諾ソフトウェアの稼動が依存する可能性のある、許諾ソフトウェア以外の製品、ソフトウェア又はネットワークサービス（当該製品、ソフトウェア又はサービスは第三者が提供する場合に限らず、ソニー、ソニーの関連会社又は原権利者が提供する場合も含みます）は、当該ソフトウェア又はネットワークサービスの提供者の判断で中止又は中断する場合があります。ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアの稼動が依存する可能性のあるこれらの製品、ソフトウェア又はネットワークサービスが中断な

く正常に作動すること及び将来に亘って正常に稼動することを保証いたしません。

3. お客様に対するソニー、ソニーの関連会社及び原権利者の損害賠償責任は、当該損害がソニー、ソニーの関連会社又は原権利者の故意又は重大過失による場合を除きいかなる場合にも、お客様に直接且つ現実に生じた通常の損害に限定され且つお客様が証明する許諾ソフトウェアの購入代金を上限とします。但し、かかる制限を禁止する法律の定めがある場合はこの限りではないものとします。

第6条（用途の限定）

許諾ソフトウェアは高度の安全性が要求され、許諾ソフトウェアの不具合や中断が生命、身体への危険、有体物又は環境に対する重大な損害に繋がる用途（例えば、原子力発電所を含む核施設の制御、航空機の制御、通信システム、航空管制、生命維持装置又は兵器）を想定しては設計されていません。ソニー、その関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアがこれら高度の安全性が要求される用途に合致することを一切保証しません。

第7条（第三者に対する責任）

お客様が許諾ソフトウェアを使用することにより、第三者との間で著作権、特許権その他の知的財産権の侵害を理由として紛争を生じたときは、お客様自身が自らの費用で解決するものとし、ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者に一切の迷惑をかけないものとします。

第8条（著作権保護及び自動アップデート）

1. お客様は、許諾ソフトウェアの使用に際し、日本国内外の著作権法並びに著作者の権利及びこれに隣接する権利に関する諸条約その他の知的財産権に関する法令に従うものとします。また、許諾ソフトウェアのうち、著作物の複製、保存及び復元等を伴う機能の使用に際して、ソニーが必要と判断した場合、ソニーが、当該著作物の著

次のページへつづく

作権保護のため、かかる許諾ソフトウェアによる複製、保存、復元等の頻度の記録をとり、状態を監視し、さらに複製、保存及び復元の拒否、本契約の解約を含む、あらゆる措置をとる権利を留保することに同意するものとします。

2.お客様は、お客様がソニー又はソニーの指定する第三者（ソニーの関連会社を含む）のサーバーに指定デバイスを接続する際、次の各号に同意するものとします。

(ア) 許諾ソフトウェアのセキュリティ機能の向上、エラーの修正等の目的で許諾ソフトウェアが適宜自動的にアップデートされること、

(イ) 当該許諾ソフトウェアのアップデートに伴い、許諾ソフトウェアの機能が追加、変更又は削除されることがあること

(ウ) アップデートされた許諾ソフトウェアについても本契約の各条項が適用されること

第9条（ネットワークサービス）

許諾ソフトウェアは、ネットワークサービスを通じて利用可能となるコンテンツと共に使用されることを想定している場合があります。コンテンツ及びネットワークサービスを利用するにあたっては、当該ネットワークサービスのご利用条件に従っていただく必要があります。かかるご利用条件にご同意いただけない場合、許諾ソフトウェアの利用は限定的なものとなる場合があります。ネットワークサービス又はコンテンツのご利用にあたっては、インターネット環境が必要となります。インターネット環境の整備、セキュリティ及びその費用についての責任はお客様にあるものとします。尚、許諾ソフトウェアの動作や機能は、インターネット環境により限定的なものとなる場合があります。また、ネットワークサービスの中止又は終了及びインターネット環境等により、許諾ソフトウェアと共に使用されるコンテンツが利用できなくなる場合があります。

第10条（契約の解約）

1.ソニーは、お客様が本契約に定める条項に違反した場合、直ちに本契約を解約し、またはそれによって蒙った損害の賠償をお客様に対し請求できるものとします。

2.前項又はその他の事由で本契約が終了した場合でも、第4条、第5条乃至第13条の規定は有効に存続するものとします。

第11条（許諾ソフトウェアの廃棄）

前条の規定により本契約が終了した場合、お客様は契約の終了した日から2週間以内に許諾ソフトウェアおよびその複製物を廃棄するものとし、その旨を証明する文書をソニーに差し入れるものとします。

第12条（契約の改訂）

ソニーはお客様が登録した電子メールアドレスへの電子メールの発信、ソニー所定のサイトでの告知又はその他ソニーが適切と判断する方法をもってお客様に事前に通知することにより、本契約の条件を改訂することができます。お客様はかかる改訂に同意しない場合は、本契約の条件改定の発効日前までに、ソニーにその旨を連絡するとともに直ちに許諾ソフトウェアの使用を中止するものとします。本契約の条件改訂の発効日以降のお客様による許諾ソフトウェアの使用をもって、お客様は改訂されたソフトウェア使用許諾契約書に同意したものとします。

第13条（その他）

1.本契約は、日本国法に準拠するものとします。

2.お客様は、許諾ソフトウェアを日本国外に持ち出して使用する場合、適用ある輸出管理規制、法律、命令に従うものとします。

3.本契約は、消費者契約法を含む消費者保護法規によるお客様の権利を不利益に変更するものではありません。

4. 本契約の一部条項が法令によって無効となった場合でも、当該条項は法令で有効と認められる範囲で依然として有効に存続するものとします。

5. 本契約に定めなき事項又は本契約の解釈に疑義を生じた場合は、お客様及びソニーは誠意をもって協議し、解決するものとします。

以上

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

<http://www.sony.jp/support>

使い方相談窓口

フリーダイヤル
.....0120-333-020

携帯電話・PHS・一部のIP電話
.....050-3754-9577

修理相談窓口

フリーダイヤル
.....0120-222-330

携帯電話・PHS・一部のIP電話
.....050-3754-9599

※取扱説明書・リモコン等の購入相談は
こちらへお問い合わせください。

FAX (共通) 0120-333-389



上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に

「306」+「#」

を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

HDMI

LDAC

Made for
 iPhone



* 4 5 5 8 4 9 7 0 5 * (1)

4-558-497-05(1)